

あると言えるかもしれない。

しかし、ここで目を中東やアフリカに転ずれば、そこにはこれまで「9. 11」以上に悲惨な大量虐殺の現実がいくつも存在してきた。しかし、「多くの『9. 11』」の存在は、アメリカにおいても、世界においても、ほとんど認識されることはなかった。その原因は、「情報における南北格差」である。経済的南北格差がテロの原因の一つであると言われている。それと同様に重要であるのが、この「情報における南北格差」の克服であろう。

アメリカ以外の地域の人びとにおける「9・11」の内実と細部に目を注ぎ、「独立宣言」で「すべての人 (all men)」に神から与えられていると宣言した基本的人権と尊厳を、アメリカは軽視してきたことを認識するところから、アメリカが原理主義的「見えざる国教」を克服するようになることを期待したい。

- 1) 本論文はアメリカ学会の機関誌「アメリカ研究」38 (2004年) に、「アメリカの『見えざる国教』再考」として掲載された拙論に加筆・修正したものである。転載を許可して下さったアメリカ学会に感謝したい。
- 2) Stephen Mansfield, *The Faith of George W. Bush*, Jeremy P. Tarcher/Penguin, 2003.
- 3) 質問内容は、「あなたは自分を宗教右派 (religious right movement) のメンバーだと思いますか」である。*PRRC Emerging Trends*, April 1995.
- 4) <http://www.gallup.com/poll/topics/religion4.asp>
- 5) 『フォーサイト』2002年6月号, 43頁。.
- 6) ロバート・N・ベラー「アメリカの市民宗教」『社会変革と宗教倫理』(未来社, 1973年), 343－375頁。
- 7) 森 孝一『宗教からよむ「アメリカ」』(講談社新書メチエ, 1996年) 参照。
- 8) アスマ・グル・ハサン『私はアメリカのイスラーム教徒』(明石書店, 2002年) 参照。
- 9) 『朝日新聞』2002年7月3日。
- 10) See Clinton, William J., "Memorandum on Religious Expression in Public Schools," *Weekly Compilation of President Documents*, Vol.31, No. 28 (July 17, 1995), PP.1229-1230.
- 11) *International Herald Tribune*, November 5, 2004.
- 12) *PRRC Emerging Trends*, September 1995 ; 2003年9月に、*USA Today/CNN/Gallup Poll*が行った世論調査では、78%が公立学校で特定の教団に関係のない祈り (non-denominational prayer) を祈ることに賛成している。See *The CQ Researcher*, July 30, 2004, P.641.
- 13) 森「序章・アメリカ文明への信仰」, 『宗教からよむ「アメリカ」』参照。
- 14) 前主任牧師であるウィリアムズ (Cecil Williams) 牧師の夫人で、当教会の指導者でもある Janice Mirikitani は、ブッシュ大統領によって実施されている宗教団体の社会福祉活動への連邦政府からの補助金 (Faith-based Initiative and the Citizen Service Act) を当教会も受けていることが、政府批判を鈍らせている原因であると語った。(2004年9月12日の私のインタビューに答えて)
- 15) 鈴木有郷『アブラハム・リンカンの生涯と信仰』(教文館, 1985年), 151頁参照。

テーマ論文「一神教における対立と対話」

相互理解かそれとも不寛容か？※ －マレーシアにおけるイバン語聖書禁止・解除事件の影響と含意について－
綱島(三宅) 郁子 キーワード イバン語聖書、サラワク州、共通する宗教用語、制約、神概念 ※本稿は英語原稿からの筆者本人による翻訳である。

要旨

本稿では、一神教における対立と対話に関して、2003 年前半にマレーシアで発生したイバン語聖書の禁止および解除事件を取り上げる。これは、マレーシアの内務省とキリスト教共同体に関わる問題である。当局側の説明によれば、当該聖書中の ‘Allah Taala’ (いと高き神) という語彙使用が、国内のムスリムを混乱させ、ひいては公共の安寧に害を及ぼす可能性があるため禁止措置をとったという。イスラームとキリスト教に共通する宗教用語は、両者が共にセム系一神教のルーツを持つことを示唆する。ところがマレーシアでは、これら言語上の共有要素がムスリムにとって「センシティブ」であるとみなされ、当局は1980年代以降、クリスチャンに対して複数の共通語彙の使用に制約をかけている。この制約事項が、かえって相互理解を妨げ、非ムスリムには不寛容だと解されるのである。本件は禁止後二ヶ月足らずで一応の解決を見たが、問題の核心は未解決のままである。本稿は、キリスト教側の見解に焦点を当てつつ、禁止通告から解除に至るまでの動向について詳述するものである。

1. はじめに

本稿では、2003年3月上旬にマレーシア内務省が禁止措置の対象とした、イバン語聖書 “*Bup Kudus*” (‘bup’ は「本」、‘kudus’ は「聖なる」の意味) の問題を対象とする。当局によれば、禁止の理由は、当該聖書中で使用されている ‘Allah Taala’ (「いと高き神」¹⁾) という語彙が国内のムスリムを混乱させるかもしれない、ひいては国内治安にとって有害だからだという。イバン語聖書の禁止そのものは、ムスリムである内務大臣と11名のキリスト教指導者層との間で合議を経て、二ヶ月足らずの間に解除された。しかし本件に関して、ムスリムとクリスチャンとの間で宗教間対話はほとんどなされていないようである。恐らくそれは、本件

は純粋に宗教的な事項ではなく、政治的問題とみなされているからであろう。さらに、マレーシアにおいて、民族と宗教は微妙な問題あるいはタブーであるとされているので、いったんトップの政治指導者と宗教指導者層の間で事が解決したならば、一般の人々は通常、沈黙を守る傾向にあるためでもある。

本件は、単なる一過性の出来事のようにも見えるが、実は、1980年代にも同様の事例が発生していることにも注目すべきである。焦点とされる問題は、マレー語聖書²⁾ およびインドネシア語聖書の“*Alkitab*”(‘al’は定冠詞、‘kitab’は「本」の意味)で用いられている‘Allah’という用語についてであった(資料1)³⁾。

マレーシアでは、多数派のマレー・ムスリムと少数派の非マレー・クリスチャンの間で、それぞれが是とする諸価値に対立があり、エスニック的、政治的、宗教的緊張を誘発しやすい。また、イスラームとキリスト教は共に宣教する普遍宗教であるゆえ、特にマレー系先住民族に対する伝道活動ないしは改宗活動は競合関係にある。そして、イスラームとキリスト教に共通する宗教語彙の存在は、相互理解ではなく、むしろ宗教的分極化へと向かわせている。それは、イスラームの優越性という主張のため、また、多数派であるムスリムをキリスト教の影響から保護するためである。

無論、このように微妙な状況下で、マレーシアにおけるすべてのエスニック集団や各宗教共同体が、平和で調和のとれた社会を維持しようと努力していることは事実である。しかし、ムスリムとクリスチャンの間に横たわる摩擦は、各共同体の相互が合意し十分な適応に至らなければ、残念ながら、今後もさまざまな形でくすぶり続けていくだろうというのが、筆者の予測である。

本稿では、キリスト教側の見解に焦点を当て、いかにしてクリスチャン達がイバン語聖書禁止をすみやかに解除しようと模索したか、またその後の状況はどうであったかを中心に、詳細に分析し記述する。ただし、リサーチ上の限界があったことも申し添えておく。第一に、本件におけるムスリム側の意見は、直接的には得られていない。第二に、内務大臣と教会指導者層との密室会議の議事録は機密であるがために、なぜ突然イバン語聖書が禁止の対象になったのかの真の理由は、いまだ曖昧で不透明で憶測の域を出ない。第三に、筆者の専門はもともとイバン研究ではないため、サラワク州在住のイバン人クリスチャンから直接の情報を得たわけではない。これらの制約を承知の上で、マレーシア社会一般の状況説明に続き、本件発生から一応の解決およびその余波について順を追って述べることにする。

2. マレーシアの概観

2.1. 背景

マラヤ連邦は、1957年8月31日に英国から政治的独立を獲得した。その後、1963年9月16日に、インドネシアやフィリピンの強硬な反対を押し切り、マラヤ連邦、シンガポール、サバ州、サラワク州を組み入れてマレーシア連邦が成立した。国土の地理的状況は地図1に示されている。1965年8月9日にシンガポールが分離独立した後、連邦は半島マレーシア(西マレーシア(地図2))とボルネオ島(東マレーシアすなわちサバ州とサラワク州(地図3))の13州から形成されている。

現在、全国土面積は329,847平方キロメートル、人口は24,918,300人である⁴⁾。

地図 1. マレーシア連邦



地図 2. 半島マレーシア



地図 3. サバ州とサラワク州



2.2. エスニック構成

マレーシアは、豊かな文化的多様性と遺産を持つ多民族、多宗教、多言語の国である。エスニック集団は、民族的理由よりも政治的理由によって、大きく二つの範疇に分けられている。一方は、ブミプトラ(土地の子)と呼ばれるマレー人およびマレー系先住民族のグループである。もう一方は非ブミプトラとされ、マレーの土地すなわちヌサンタラ(マレー諸島)以外に出自を持つ人々で、具体的には、華人、インド系、より小さな集団としてアラブ人⁵⁾、シンハリ人、ユーラシア人(欧亜混血の人)、ヨーロッパ系などを指す⁶⁾。マレーシア政府が公表している統計から、エスニック集団別の人口概数を割り出した分布を以下に示す。

表1.1. マレーシアにおけるエスニック集団別人口分布の割合(2003年)⁷⁾

エスニック集団	百分率*
マレー人	50.3%
非マレー・ブミプトラ	11.0%
華人	24.0%
インド系	7.0%
その他	1.3%
非マレーシア国民	6.4%
100.0%	
(*注:比率は筆者による計算)	

表1.2. 半島マレーシアにおけるエスニック集団別人口分布の割合(1998年)⁸⁾

エスニック集団	百分率*
マレー人	59.0%
非マレー・ブミプトラ	0.9%
華人	28.1%
インド系	9.3%
その他	2.7%
100.0%	
(*注:比率は筆者による計算)	

表1.3. サバ州におけるエスニック集団別人口分布の割合(2002年)⁹⁾

エスニック集団	百分率*
マレー人	12.3%
カダザンドゥスン人	17.9%
バジャウ人	13.0%
ムルット人	3.2%
その他のブミプトラ	14.8%
華人	9.9%
その他	4.8%
非マレーシア国民	24.1%
100.0%	
(*注:比率は筆者による計算)	

表1.4. サラワク州におけるエスニック集団別人口分布の割合(2003)¹⁰⁾

エスニック集団	百分率*
マレー人	22.4%
イバン人	29.1%
ビダユー人	8.0%
メラナウ人	5.5%
その他のブミプトラ	5.7%
華人	25.6%
その他	0.4%
非マレーシア国民	3.3%
100.0%	
(*注:比率は筆者による計算)	

留意すべきは、半島マレーシア、サバ州、サラワク州で、それぞれエスニック構成が異なることである。半島マレーシアでは、マレー人が人口の多数派を占める。しかし、サバ州ではカダザンドゥスン人が優勢であり、サラワク州ではイバン人が最大人口を形成している。

2.3. 言語

マレーシアで使われている言語は約145に及び、そのうち130言語が先住民族の人々に話されていると言われる。国語法1963/67(1971年改正)によれば、マレー語である「マレーシア語(‘Bahasa Malaysia’)」(‘bahasa’は「言語」を意味する)が、唯一の国語であり公用語である¹¹⁾。英語は第二に重要な言語として広く行われている。その他の言語、例えばマンドリンや広東語、福建語、タミル語、パンジャビ語、アラビア語、タイ語などは、主に半島マレーシアで話されている。サバ州やサラワク州の言語状況はさらに多様である。

3. マレーシアの諸宗教

3.1. イスラームの位置づけとその他の宗教

マレーシアの諸宗教は、世界の大宗教のほぼすべてを網羅している。連邦憲法の第3条と第11条によれば¹²⁾、イスラームは連邦の宗教であり、信教の自由は憲法上、非ムスリムのみに保障されている。つまり、非ムスリムはイスラームやその他の宗教への改宗の自由が保障されているが、イスラームから他宗教への改宗は強く阻止されている。

表1.5.に最新の宗教別人口分布を示す。

表1.5. 宗教別人口分布(マレーシア国民のみ)(2000年)¹³⁾

宗教	百分率*
イスラーム	59.1%
仏教	20.2%
キリスト教	9.1%
ヒンドゥ教	6.5%
儒教/道教	2.8%
精霊信仰/民俗宗教/その他	1.2%
無宗教/不明	1.1%
100.0%	
(*注:比率は筆者による計算)	

マレーシアの特徴の一つとして、宗教とエスニック集団の密接な連関があげられよう。連邦憲法第160条により、「マレー人」とは、出生地および居住地の条件を伴うが、基本的には、ムスリムであり、日常的にマレー語を話し、マレーの慣習に従う者であると定義される¹⁴⁾。すなわち、イスラームはとりまなおさずマレー人とマレー文化に結びついているのである。マレー語の‘masuk Melayu’ (字義通りには「マレーに入る」の意味)という表現は、「イスラーム改宗する」または「ムスリムになる」という意味である。例えば、あるインド系がイスラーム改宗し、マレー語を日常的に話し、マレーの慣習に従うならば、その人はマレー人に範疇化される。一方、単にマレー系民族に属していても、イスラームを信奉していなければ、その人はマレー人と認められない。

半島マレーシアのエスニック集団内で、華人人口のかかなりの比率が仏教徒、インド系の大多数がヒンドゥ教徒である。また、儒教や道教を信奉するのは華人、シク教を信仰するのは北インド系である。仏教は、華人のみならずスリランカ系やタイ系の人々にも信仰されている。非イスラーム諸宗教のうち、パハイ教とキリスト教は、マレー人を除くすべてのエスニック集団に対して開かれている。一方、サバ州やサラワク州の状況はさらに複雑で、半島マレーシアと同一視はできない。

3.2. マレーシアのキリスト教

『マレーシア情報2002年度版』では、この地におけるキリスト教の到来が次のように説明されている¹⁵⁾。「この地域にキリスト教をもたらすのには、初期時代の国を超えた貿易が重要な役割を果たした。ペルシャ商人の中にはネストリウス派クリスチャンもいた。中世以降、カトリックの外交官や旅行家や神父達が、中国に向かう途上でマラッカ海峡を経由した。15世紀、スルタン統治下のマラッカに寄留した貿易商の中には、今日では東トルコに相当する地域出身のネストリウス派クリスチャンやアルメニア派クリスチャンもいた。教会は、1511年のポルトガル人の到来と共に建設された。続いて1641年のオランダ、そして1786年の英国もそれに倣った。しかしながら、この時代のキリスト教共同体は、もっぱら一時滞在者の外国人が中心であった。中国から華人クリスチャン達が共同体を形成して各地に移住した事例もある。例えば、バーゼル・ミッションの客家人がサバ州へ、メソディストの福州人がサラワク州シブやペラ州シティアワンへ、といった具合である。キリスト教宣教師達は、国内の各地域で学校や病院を建て、教育や医療分野で重要な役割を果たした。」

さらに、今日のキリスト教については、次のように記されている¹⁶⁾。「マレーシアが1957年に独立を獲得すると共に、教会もマレーシア化の経過を辿ることになった。外国人宣教師達は、計10年までのビザ更新しかできなくなった。同時に、新来の宣教師達には、ほとんどビザが下りなくなった。このため地元の教会指導者達が養成されるようになったのである。今日では、マレーシアのキリスト教会は、指導性や会員や経済的側面において概ね現地化している。」¹⁷⁾

3.3. イスラームとキリスト教の関係

表1.6. は、全人口におけるイスラームとキリスト教すなわち一神教のエスニック別人口分布を示している。

表1.6. 全人口における一神教のエスニック別人口分布(マレーシア国民のみ)(2000)¹⁸⁾

宗教	マレー人	マレー系	華人	インド系	その他	合計
イスラーム	53.4%	4.3%	0.3%	0.3%	0.8%	59.1%
キリスト教	0.0%	5.8%	2.5%	0.6%	0.2%	9.1%
(*注:比率は筆者による計算)						

項目3.1.で触れたように、憲法上の定義のため、上記の表ではマレー人の中にクリスチャンは存在しない。一神教内では、「その他」を除けば、マレー系先住民族(非マレー・ブミプトラ)や華人やインド系の間で、キリスト教人口はイスラーム人口より多い。

さらに、イスラームとキリスト教の人口密度は、地域によっても異なっている。

表 1.7. 州別の一神教人口密度 (2000) ¹⁹⁾

州	イスラーム	キリスト教	その他の宗教*
ジョホール	58.8%	2.2%	39.0%
クダー	76.9%	0.8%	22.3%
クランタン	94.5%	0.2%	5.3%
マラッカ	64.2%	3.9%	31.9%
ヌグリ・スンビラン	58.6%	2.7%	38.7%
パハン	73.8%	1.2%	25.0%
ペラ	53.9%	3.1%	43.0%
プルリス	85.4%	0.5%	14.1%
ペナン	44.2%	3.6%	52.2%
サバ	63.7%	27.8%	8.5%
サラワク	31.3%	42.6%	26.1%
スランゴール	55.7%	4.3%	40.0%
トレンガヌ	96.9%	0.3%	2.8%
□ クアラルンプール	46.2%	5.6%	48.2%
□ ラブアン	76.3%	12.8%	10.9%
マレーシア全体	60.4%	9.1%	30.5%

(*注:比率は筆者による計算)

(□この2つの地域は州ではなく連邦特別地区である)

上表によれば、クランタン州とトレンガヌ州では、ムスリム人口がかなり密集していて90%以上である。クダー州、パハン州、プルリス州とラブアンでは、イスラームはキリスト教も含めた他の非イスラーム諸宗教と比べて優勢である。その他の6州、つまりジョホール州、マラッカ州、ヌグリ・スンビラン州、ペラ州、サバ州、スランゴール州では、ムスリム人口は50%から65%の間である。しかし、ペナン州とサラワク州と首都クアラルンプールでは、ムスリム人口は50%以下である。特にサラワク州は、マレーシアで唯一、クリスチャン人口がムスリム人口をはるかに上回っている州である。全体として、国内のムスリム人口は60%をようやく超えた割合であり、非ムスリム人口は約40%である。ムスリム共同体と非ムスリム共同体のこの比率は、国民統合の上で危うい均衡を示唆しており、宗教的緊張の度合いが潜在的に高いと考えられる。

英国植民地支配期のキリスト教伝道に関しては、パンコール条約に言及しなければならない。この条約は英国植民地官僚Andrew Clarkeとペラ国のマレー人有力者Raja Abdullahとの間で1874年1月20日に締結されたもので、事実上、マレー人の間でキリスト教を伝道することは奨励されなくなった²⁰⁾。その結果、宣教活動はマレー人以外の移民系かマレー系先住民族に制限された。この傾向は今日まで続いている。

現在までのところ、キリスト教へのマレー人改宗者の事例数は極めて限られている²¹⁾。他の宗教に改宗したムスリムは、元の宗教であるイスラームに戻るようリハビリセンターに送られる。もし背教者が新しく受け入れた信仰を放棄しなければ、例えばニュージーランドなど他の移民立国へ強制的に国外追放となる²²⁾。しかし、イスラームを誹謗しない限りにおいて、政府の立法措置によって死刑になることはない。

4. サラワク州のイバン人とキリスト教

白人王と呼ばれたジェームズ・ブルック爵の支配下にあったサラワク州で、イバン人に対してキリスト教が導入された経緯とその普及および宣教活動は、イバン語(海ダヤク語)への聖書翻訳史からも詳細に読みとることができる(資料2)²³⁾。

歴史的に、この地域のイバン人には、イスラームよりもキリスト教の方が早く到来した。マレーシア聖書協会は²⁴⁾、イバン人とキリスト教宣教の関係を次のように説明している²⁵⁾。

「植民地時代以来、聖書は社会変革の道具であった。家なき子ども達のために孤児院を造り、教育のために学校を設立し、病人を治療するのに病院を建設するなど、キリスト教宣教の努力を通して社会は変えられてきた。同様に、ずっと遅い時期ではあったが、イバン人も福音を受け入れたのである。イバン人達はキリスト・イエスの愛の教えによって変えられてきた。この人々はもともと海ダヤク人と呼ばれ、荒々しい猛者で互いにいくさをしかけ、男らしさのしるしとして首狩りをしていた。奇妙なことに、あらゆる精霊の神々がこの獐猛な部族の人々を支配していたのである。しかし聖書は、彼らを恐れと精霊信仰の軛から解放した。これは神の恵みであった。」

サラワク州ではイスラームが少数派であり、当局や一部のムスリムグループがイスラーム改宗を促す活動を試みてきた²⁶⁾。しかしながら、これはあまり成功したとは言えなかったようである。Theodore(1996: 105)は、サラワク州における一神教別人口分布の変化を次のように記録している。

表1.8. 1947年から1980年までのサラワク州における一神教別人口分布

	1947	1960	1970	1980
クリスチャン	7.9 %	15.8%	17.6%	28.5%
ムスリム	24.6%	23.4%	26.3%	26.3%
その他	67.5%	60.8%	56.1%*	45.2%*

(*注:比率は筆者による計算)

また1991年の国勢調査によれば、サラワク州のキリスト教人口は36.6%である一方、ムスリム人口は28.8%である²⁷⁾。従って、1947年から2000年までのサラワク州における一神教人口別分布を総計すれば、次のようになる。

表1.9. 1947年から2000年までのサラワク州における一神教別人口分布

	1947	1960	1970	1980	1991	2000
クリスチャン	7.9 %	15.8%	17.6%	28.5%	36.6%	42.6%
ムスリム	24.6%	23.4%	26.3%	26.3%	28.8%	31.3%
その他	67.5%	60.8%	56.1%*	45.2%*	34.6%*	26.1%
(*注:比率は筆者による計算)						

上表から読み取れるのは、ムスリム人口が徐々に安定した状況で増えていったのに対し、クリスチャン人口はもっと早いペースで拡大していったということである。

サラワク州都のクチン教区に属するイバン人カトリック司祭であるChristopher Laden神父は、イバン人(ダヤク人)がなぜキリスト教に改宗したかについて、次のように説明している²⁸⁾。「それはキリスト・イエスのためです。そして教会は、神がどのようなお方であるかを説明し、永遠の命を約束してくれました。私達ダヤク人は創造主なる神を信じていましたが、それがどなたかを知りませんでした。つまり、その方が良い人なのかそれとも悪い人なのか、また私達を愛してくださるのか私達のすべてを気にしてくださるのか、ということについてです。私達の信じていたところでは、死後は何も残らないというものでした。でもキリスト教は希望を与えます。第二の理由は社会学的なものです。私達はクリスチャンになることによって、助け合い同胞愛をはぐくむ共同体に入ります。一方で、古い部族社会は消滅していきます。私達ダヤク人はイスラームを受け入れません。なぜなら、イスラームは私達のメンタリティからかけ離れていて、私達の信じるところに合致しないからです。」この記事は、クチン以外の森林地帯ではムスリムの人数が少ないとも報告している。イスラーム改宗は、ムスリムとの結婚や商業上の接触、あるいは学業や職業上の利点や特権を約束されることによって起こる。カトリック司祭のジョン神父は、先住民族の人々がキリスト教を選択する理由について、こう語ったという²⁹⁾。「キリストとの出会いによって、彼らは個人生活のみならず家庭や村の生活における変化を経験するのです。」

Ghazali Basri(1999: 86, 91)は、自分の調査結果から、イバン人のムスリム人口は0.6%に過ぎず、クリスチャン人口は50.0%以上であると述べている³⁰⁾。残りの49.4%はアニミズムか無宗教であるという。サラワク州の公的統計によれば、イバン人は64万4,900人と推計されているので³¹⁾、少なくともおよそ30万人以上のイバン人クリスチャンが州内に存在すると考えられる。

言語学上の特徴について、マレー人言語学者のAsmah Haji Omar(1981: 5)は、イバン語とマレー語は文構造や音声体系が似ていて、近似性が見られると述べている。サラワク州では、イバン語はイバン人だけでなく華人や他のエスニック集団にも話されているという³²⁾。

5. イバン語聖書の禁止問題

5.1. 不当な禁止

内務省の出版物統制部門が2003年3月5日付で、マレー語とイバン語で書かれたイスラームとキリスト教に関する35冊の書籍を禁止した。これは、内務大臣の署名で³³⁾、1984年の印刷物および出版物に関する法律(1987年改正)と2003年の印刷物および出版物(望ましからぬ出版物の統制)に関する法令の下で官報公示された。“*Bup Kudus*”すなわちイバン語聖書は、禁止された書籍中の一冊に数えられていた(資料3の2)。残りの34冊のうち、20冊はイスラーム関係で14冊はキリスト教関係である³⁴⁾。

興味深いことに、メディアは2003年4月9日までこの件を公に報じなかった。最初に報道したのは、ウェブサイトの“*Bernama.com*”で、2003年4月8日夜のことであった³⁵⁾。ひとたび“*Bernama.com*”が公表するやいなや、翌日には、その他の主要な国内メディアのみならず、隣国シンガポールのメディアの報道もそれに続いた。例えば、“*New Straits Times Online*”³⁶⁾ “*The Star Online*”³⁷⁾ “*Utusan Malaysia Online*”(英語版)³⁸⁾ “*Berita Harian Online*”(マレー語版)³⁹⁾、シンガポールでは“*The Straits Times*”⁴⁰⁾ がそれに該当する。

35冊のうち最も注目を集めたのはイバン語聖書であった。それは、その他の書籍がインドネシアから輸入されたものだったのに対し⁴¹⁾、イバン語聖書は国内のマレーシア聖書協会によって出版されたものだったからである。マレーシア聖書協会の事務局長との面談で耳にしたところによれば⁴²⁾、法律専門家の中にはクリスチャンが多く、その一人が報道関係者に官報内容を告知するよう依頼したのだという。しかしそれまでは、どのキリスト教組織にも内務省からの直接の通知はなかったため、マレーシア聖書協会は何も知らずにイバン語聖書を通常通り販売し続けていたとのことである⁴³⁾。これは、当局による官報公示とメディアによる一般報道との間に一ヶ月以上のギャップがあったことを示唆するものである。

メディア報道によれば、通称でJAKIM(Jabatan Kemajuan Islam Malaysiaの略)と呼ばれるイスラーム促進部門が、イバン語聖書の禁止を導いたという。イスラーム用語に似ている“*Allah Taala*”という語が当該聖書の中に含まれているという理由からであった⁴⁴⁾。直接イバン語聖書禁止に関与したのは、サラワク州の内務省フィルム検閲および出版物統制部門の上級役人兼執行主任Elias Mat Rabi氏だったようである⁴⁵⁾。報道によれば、今回の禁書は、非イスラーム諸宗教の書籍に関する「ガイドライン」に違反しており、ムスリムを混乱させる可能性があり、国家治安にとって危険だからという理由に基づく、と氏は述べた。しかしこの

発言直後、それ以上本件についての言及を避けたという⁴⁶⁾。

その「ガイドライン」とは、1986年12月5日付で、内務省から国内すべてのキリスト教出版社に宛てて通知された公的書簡である(資料4)。内容は、マレーシア語の4語彙(‘Allah’ ‘Kaabah’ ‘Baitullah’ ‘Solat’)をキリスト教出版物で使用することを禁じるものである⁴⁷⁾。資料5では、参考までに、海ダヤク語またはイバン語の聖書から部分引用を載せたが、‘Allah’ という用語以外は、残り3つの語彙を使用した形跡は見られないことがわかる⁴⁸⁾。

5.2. 反響と行動

新聞がイバン語聖書禁止を報道すると直ちに、サラワク州のキリスト教指導者達と首都圏のキリスト教組織の本部は、本件に関するプレス声明を出した⁴⁹⁾。その内容は、キリスト教共同体を代表して「驚き」「衝撃」「戸惑い」「懸念」そして「恐れ」の感情を表現し、イバン人クリスチャン達は1988年以来イバン語聖書を用いてきており、何ら問題はなかったのに、なぜ突然禁止になったのか理解できないと訴えるものであった。また、本件について話し合い、キリスト教側の説明をするために内務大臣との面談を求めた。それが合議による解決に結びつくだろうと期待したのである。

ここで銘記すべきは、マレーシア法曹界の会長であるHaji Kuthbul Zaman Bukhari氏が当局に対し、本件は憲法で保障されている非ムスリムの信教の自由を侵害するものであるため即刻禁止を解除するよう助言したことである⁵⁰⁾。

結果から言えば、本件について、国内の英語メディアが継続的に追跡報道したのに対し、ムスリムが読者層の大半を占めるマレー語メディアは、比較的限られた回数しか報道しなかった。これはメディアの報道態勢として極めて対照的である。

インターネット版の非体制派メディアである“*Malaysiakini.com*”では、連日、本件に関して読者から活発な議論が交わされた⁵¹⁾。参加したのはクリスチャンが中心であったが、後に何人かのムスリムも加わった。クリスチャンが‘Allah’という語を使用することに対するムスリムの見解は、賛否両論に分かれていた⁵²⁾。クリスチャンとユダヤ教徒がムスリムと同じ神を信じていることに同意するムスリムもいたが、少数派であった。一方、否定的な反応の理由の一つは、キリスト教とイスラームとでは神概念が異なるというものであった。三位一体を信じているキリスト教の神概念に‘Allah’という用語を当てることは、ムスリムにとって侮辱的で無礼であるとみなされる。また、ムスリムにとってのクルアーンは、多くの言語に訳されている聖書とは同格ではない。従って、ムスリムとクリスチャンとで用語を分かち合うことには同意できない、という。別のムスリムは、アラビア語聖書の中でのみ‘Allah’という語彙を使ってはどうかと勧めていた。その他に、クリスチャンがムスリムと同様の用語を使うのは技術的には正しいと認めるものの、キリスト教の宣教師達が共通の宗教用語を使ってムスリムにキリスト教を信じるよう説得することに不満をもらすムスリムもいた⁵³⁾。

5.3. その他の反応

インターネットを經由して、当局によるイバン語聖書禁止に抗議した人々もいた。まず、華人クリスチャンであるOng Kian Ming氏発案のインターネット署名活動がある⁵⁴⁾。そのキャンペーンは、内務大臣に宛てて即座に聖書禁止を解除するよう要求するもので、非クリスチャンも含む国内のマレーシア人のみならず、外国在住のマレーシア人や外国人など1,500名以上のコメント付署名を集めた⁵⁵⁾。第二に、諸外国のメディア機関や国際的なキリスト教団体も本件を取り上げて、インターネット上で報道した⁵⁶⁾。その多くは、表現に細心の注意を払いつつも、宗教的抑圧あるいはイバン人クリスチャン達に対する不寛容という理由から当局を批判するものであった。第三に、クアラルンプールのカトリック弁護士会会長のChan Yat Hee氏が、政府に対する2003年4月21日付のプレス声明として、憲法で保障されている信教の自由を確証するよう訴える文書を作成し、インターネット上にも掲載した⁵⁷⁾。

各政党の中では、都市部の華人が中心で専門職のインド系も若干支持者に含む野党の民主行動党(Democratic Action Party)が、人権、信教の自由、民主主義の観点から、積極的に聖書禁止に対して抗議した⁵⁸⁾。

一方、マレーシア福音派キリスト教交流会は⁵⁹⁾、2003年4月22日、イラクの人々のために、マレーシア国際平和基金に宛てて10万リンギット(約300万円相当)の献金をした⁶⁰⁾。内務省副大臣のDatuk Chor Chee Heung氏が、内務大臣兼代理首相を代表して受け取ったという。宗教的寛容と他の人々に対する貢献を表明しようとしたものであろう。クリスチャン達は、イバン語聖書禁止に抗議したからといって、ムスリムやマレー人に敵対しているとレッテル付けされたくなかった。むしろ、ムスリムと非ムスリムの双方に対して愛と配慮を示そうとしたのである。

なお、あるイバン人クリスチャンは、もしムスリムがクリスチャンと用語を共有することに不満ならば、‘Allah Taala’をキリスト教以前の神概念を指すイバン語の語彙‘petara’に戻そうとも意見したようである⁶¹⁾。これについては、後述のマレーシア聖書協会からの応答の箇所(本稿の項目7)で述べる。

6. 解決に至る合議過程

6.1. 密室会談

クリスチャンのみならず非マレー人共同体を含む、国内および海外からのメディアあるいはインターネットによるさまざまな反響や抗議に答える形で、内務大臣兼代理首相はすぐさま、キリスト教指導者層と会うことを承諾し、彼らの説明を聞くことになった。

報道によれば実のところ、クリスチャンの代表者層は、代理首相との密室会談について「楽天的」だったようだ。というのも、内閣に複数のイバン人クリスチャン大臣がいて、そのル

ートで既に代理首相に対して伝言が届けられていたからであった⁶²⁾。

密室会談出席者の詳細は資料6に示されている。2003年4月22日、サラワク州および首都圏の各エスニック的背景を持つさまざまな教派に属する11人のキリスト教指導者が集い⁶³⁾、首相府のあるプトラジャヤにおいて、一時間にわたり代理首相と合議することで解決を求めたのである。

報道によれば会談は「大変和やかで建設的なもの」であり、キリスト教指導者側は代理首相の前向きで開かれた態度に謝意を表したという⁶⁴⁾。特にマレーシアキリスト教連合⁶⁵⁾の執行部役員であるDr. Hermen Shastri牧師が、イバン語への聖書翻訳は宣教師達が100年以上も前に始めたものであり⁶⁶⁾、‘Allah Taala’という用語はイバン語を話すクリスチャン達に問題なく使われてきたのだと説明すると、代理首相は、問題の禁書がイバン語聖書だとは実は知らなかったのだと述べたという⁶⁷⁾。そして、キリスト教側の説明に「満足した」ので、会合の間に、代理首相はイバン語聖書禁止の解除を決定した。

しかしながら、禁止解除の交換条件として、改訂版イバン語聖書の表紙には十字架のマークをつけて「これはイバン語に訳された聖書である」という但し書きをつけてはどうか、という提案が出されたという。そうすれば、ムスリムが偶然その本を手にとってしまっても、キリスト教の本だと容易に認識できるからである、とのことである⁶⁸⁾。

6.2. 禁止解除

密室会談後の2003年4月25日、代理首相はジョホール・バルにおいて、イバン語聖書の禁止は即刻解除すると告知した⁶⁹⁾。公的な書面による通知は、2003年4月30日付で発効された(資料7)。キリスト教側にとっては、本件が平和的に解決されたので、この合議過程は成功したといえる。国内メディアは、代理首相がイバン人クリスチャン達に対して思いやりをもって配慮を示したことに対し、クリスチャン達が「うれしい」「感謝している」と報じた⁷⁰⁾。それは、イバン人クリスチャンの内閣大臣(当時)であったDatuk Amar Leo Moggie氏の取り次ぎを経て、代理首相が本件に関して仲裁に入ったと解釈されたからである。

7. イバン語聖書禁止解除後の余波

筆者が2003年8月、マレーシアの首都圏でカトリックとプロテスタントの一般信徒達に会った時、本件がすみやかに解決したことに皆安堵していたようだった。また、既に騒動は沈静化していた。実は、不必要な社会的動揺を防ごうとして、キリスト教指導者層が一般信徒達に、本件に関する個人的意見を出さないよう指示していたのである⁷¹⁾。表面的に観察すれば、本件は円満に解決され、もはや問題が再発することはないだろうということになる。例えば“*Berita CCM*”は、「終わりよければすべてよし」という見出しをつけて、本件の一部始終

を報じていた⁷²⁾。同様に、カトリック系新聞の立場も平静で落ち着きを示すものであった⁷³⁾。

一方その背後で、2003年4月24日にマレーシア聖書協会が受け取った情報では、内務省の役人によってインドネシア語聖書“*Alkitab*”が1,000部没収されたという⁷⁴⁾。聖書協会の事務局長とスタッフは、何度も役人に接触を試みたが徒労に終わった⁷⁵⁾。さらに、マレーシア福音派キリスト教交流会の報道によれば、コタ・キナバルにあるカダザンドゥスン人のマラナサ教会所有の1,500枚のコンパクト・ディスクとテープ(18,000リンギット(約54万円相当))が、2002年11月にサバ州内務省に没収されたまま、まだ戻ってきていないという⁷⁶⁾。カトリックやプロテスタントを問わず何人かのクリスチャン達が筆者に打ち明けたところでは、もう自分達は既に当局からの「脅し」には慣れてしまっているから、イバン語聖書の問題は何ら新しいことでも特別でもないとのことである。この観点からすれば、イバン語聖書の禁止は、表向きは代理首相の理解と誠実さによって即座に解除されたということになっているが、ムスリムとクリスチャンの間に横たわる事の核心は、未解決のままであるといえよう。

資料8から資料11は、イバン語聖書で‘Allah Taala’という語を用いる言語的および聖書学的根拠を説明している。資料8から明らかなように、イバン語における神概念を指す3語彙‘petara’ ‘Entala’ ‘Allah Taala’のうち、キリスト教の神概念を表わすのに‘Allah Taala’が最もふさわしいことがわかる。また、資料9が示しているように、世界中の約60言語以上で、‘Allah’またはそれに類する語がキリスト教文献に用いられている。例えば、隣国インドネシアでは、用語についてムスリムとクリスチャンとの間で特に問題がないことは、よく知られた事実である。資料10は、聖書協会がイバン語聖書を発行する際、神概念の語彙と用法について既に説明を加えていることを証拠づけている。資料11からは、次の三点が支持される。すなわち、(1) ‘Allah’という用語を選択するのは、イスラーム以前の宗教的伝統に基づくものである(2) イスラームとキリスト教の間で宗教語彙を共有するのは論理的である(3) 従って現状維持が守られなければならない、ということである。

8. 結び

Brian William Newton(1988: 91)は次のように述べている。「多年にわたり、イバン人の存在は、マレー・ムスリムの価値観を基軸とする統合されたマレーシア文化を造りあげるのに、主な障害となってきたようである。」もしこの言及が正しいとすれば、イバン語聖書が禁止された理由の一つは、「マレーの土地」において、イスラームが少数派である唯一の州であるサラワク州で、イスラームを唱道しムスリム人口を増やそうとする一部の当局役人の動機が、その根底にあるのではないだろうか。筆者がこのように推測するのは、マレー人あるいはイバン人ムスリムがイバン語聖書を読み、単に‘Allah Taala’という語が使われていることを知ったために混乱するとは考え難く、非現実的に聞こえるからである。もし推測通りであれば、ムス

リムが本当に混乱するなら、当局が非ムスリムの権利を抑圧する代わりに、混乱しないようムスリムを教育すべきである、とWong Kim Kong牧師が述べたのは正当な意見である⁷⁷⁾。かつてDr. Hermen Shastri牧師も筆者に対し、共通の宗教語彙によってムスリムが混乱するという可能性をきっぱりと否定していた⁷⁸⁾。

他方、マレーシア福音派キリスト教交流会は、政府に対して公平になるならば、と前置きして、本件は恐らく、内務省内の特定の熱狂的な役人の行為ではないかという意見を表明していた。そのような役人は、適切な指針に従うこともなく、あるいは該当する宗教諸団体に相談することもなく、一方的に押しつけたのではないかというのである⁷⁹⁾。さらに、当会はこうも述べる。政府は通常、多元的社会の調和を奨励するよう効果的な政策を打ち立てるものの、その施行においては、ある公務員達の宗教的先入観のためにしばしば無効になってしまうことがよくあるのだ、と⁸⁰⁾。

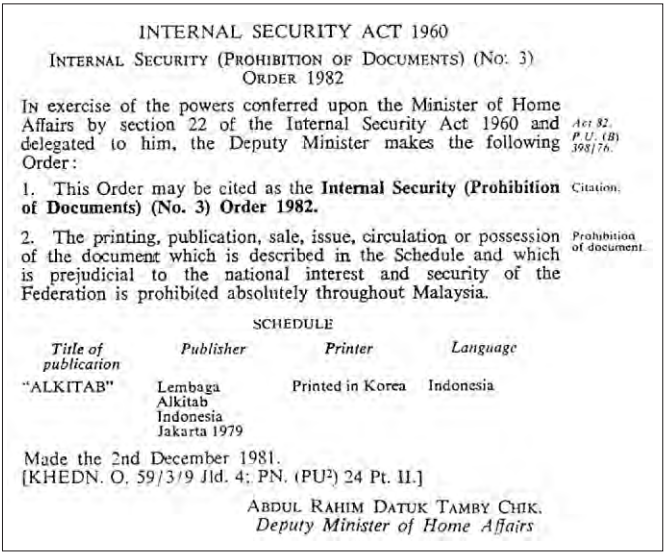
本稿を閉じるにあたって、当時の代理首相兼内務大臣であった現首相Dato’ Seri Abdullah bin Haji Ahmad Badawi氏の貢献に言及したい。2003年12月22日付メディア報道によれば、首相は国中の牧師や教会リーダーに宛てて計1,500枚のクリスマスカードを送ったという。マレーシアの歴代首相5人の中で、そのような意思表示をしたのは氏が初めてである⁸¹⁾。

さらに首相は、2004年8月3日にクアラルンプールで開かれた世界教会協議会の信仰統制委員会本会議において、印象的な演説を行なった。クルアーンと聖書の両方から引用しつつ、こう述べたのである。「私は、ホスト国の首相としてのみならず、クリスチャンの友人達との対話を始めたいと望んでいるムスリムとしてここに来ています。....私はマレーシアの首相として、ムスリムのみの指導者ではなく、全マレーシア人にとってのムスリム指導者なのです。....私の義務はあらゆる人々、特にムスリムの大多数に対して寛容のメッセージを広めることです。....公平に述べるならば、イスラームとキリスト教の間には、数年前よりも信頼と良識が失われていますから。....」⁸²⁾ その後、当委員会の議長であるDr. David Yemba師は、首相にアラビア語聖書を贈呈した⁸³⁾。

上述のエピソードは、穏健なムスリム指導者の代表としての首相による、象徴的な努力の一つと言えよう。とはいえ、マレーシア社会の今後の動向の鍵は、一般の人々の手に委ねられている。

(終)

資料 1. 1981年12月2日付インドネシア語聖書 “Alkitab” の禁止通知



(出典：Warta Kerajaan (His Majesty’s Government Gazette) Jil.26 No.2, 21hb Januari 1982, Tambahan No.3 Perundangan (A). P.U. (A) 15. p.21.)

資料 2. 海ダヤク/イバン語への聖書翻訳史
(対象地域：サラワク州のSadong 河とBintulu河の間)

年	
1848	英国国教会のFrancis T. McDougallがジェームズ・ブルック(白人王)の招きで海ダヤク人に対し活動開始
1853	S.P.G.のW.Chambers指揮の下で宣教団がサラワクに来る
1855	Francis T. McDougallがラブアンの初代司教になる
1864	W.Chambersがマタイ福音書とマルコ福音書を翻訳し出版する (S.P.C.K.)
1869	W.ChambersがFrancis T. McDougallに続きラブアン司教管区を引き継ぐ
1874	W.R.Mesney (後のサラワク副監督)がルカ福音書を翻訳する (S.P.G. サラワク) W.R.Mesneyが聖書分冊を出版する (印刷はサラワク・ミッション出版)
1877	W.R.Mesney訳によるヨハネ福音書が印刷される (S.P.G. サラワク) J.Perham (後のシンガポール副監督) が使徒行伝を翻訳する (S.P.C.K. サラワク)
1879	J.Perhamがヤコブ書、第一・第二ペトロ書、第一・第二・第三ヨハネ書を翻訳する
1880	J.Perhamが詩編“Surat Zabor” を翻訳する (S.P.C.K. ロンドン)
1881	カトリックのミルヒル・聖ヨゼフ外国宣教会員がサラワクのクチンに来る
1888	J.Perham訳による典礼書簡を出版する (S.P.C.K. (場所不明))
1892	S.P.C.K.が詩編集を再印刷する
1893	翻訳委員会 (G.F.Hose (シンガポール・ラブアン・サラワク司教), W.R.Mesney, W.Howell, J.Perham, F.W.Leggatt) 訳によるロマ書・第一・第二コリント書 (S.P.G. サラワク)

1896 翻訳委員会によるマルコ福音書（改訂版）、第一・第二テモテ書、フィレモン書、ヘブル書（S.P.G. サラワク）

1897 翻訳委員会によるヨハネ福音書（改訂版）（S.P.G. サラワク）

1902 マルコ福音書（改訂版）、ヨハネ福音書（再改訂版）（S.P.G.（場所不明））

1912 W.Howell訳によるヨハネ福音書（改訂版）（B.F.B.S. ロンドン）
海ダヤク語マルコ福音書“*Injil Kudus nunda ka S.Markus*”（B.F.B.S. ロンドン）
海ダヤク語ヨハネ福音書“*Injil Kudus nunda ka S. Joan*”（W.R.Mesney訳の改訂版）（B.F.B.S. ロンドン）

1913 W.Howell訳によるマタイ福音書（B.F.B.S. ロンドン）

1914 W.Howell訳による海ダヤク語ルカ福音書“*Injil ti ditulis S.Lukas*”（B.F.B.S. ロンドン）
英国国教会教団の海ダヤク語の典礼祈祷書“*Surat Sambeyang iya nya, sambeyang pagi enggau sambeyang lemai enggau sambeyang sakramen, enggau adar bukai dalam adat sembah eklisia nunda ka eklisia England*”（Christian Knowledge Society ロンドン）

1930 イバン語キリスト教文書“*Surat Sembaiyang orang Christian nunda adat Ecclesia Katolica*”, (hoc. opusculum a missionariis societatis), (S. Joseph exaratum in lucem editum fuit A.D.1904 et a Rev. A. Klerk emendatum A.D. 1929)（香港）

1933 W.HowellやR.W.Stontonの援助とダヤク人の助手であるL.AngkingやLawatの協力を得たW.Linton（S.P.G.）訳の海ダヤク語新約聖書“*Penyanggup Baru, iya nya surat ti madah ka Penyanggup Isa Almesih tuhan enggau pinglepas kitai*”を出版する（B.F.B.S. ロンドン）

1938 海ダヤク語の祈祷書“*Surat Sambiang*”（ラブアンとサラワク教区で公認されたもの）（英国国教会 S.P.C.K. ロンドン）

1940 海ダヤク語の祈祷と賛美歌“*Surat Pantun*”（S.P.C.K. ロンドン）

1950 海ダヤク語の賛美歌“*Surat Pantun*”（第2版改訂増補）（S.P.C.K. ロンドン）

1952 海ダヤク語新約聖書（改訂版）“*Penyanggup Baru, iya nya surat ti madah ka penyanggup Isa Almesih tuhan enggau pinglepas kitai*”（B.F.B.S. ロンドン）
海ダヤク語の個人礼拝用祈祷書“*Salalu Sambiang*”（Macmillan & Co.ロンドン）

1956 海ダヤク語マルコ福音書“*Injil ti ditulis S.Mark*”（B.F.B.S. ロンドン）
J. Buis訳イバン語公教要理“*Katekismus*”（ジェッセルトン）

1957 祈祷書“*Surat Sambiang*”（ボルネオなどの教区で公認されたもの）（英国国教会 S.P.C.K. ロンドン）

1959 海ダヤク語新約聖書“*Penyanggup baru iya nya surat ti madah ka penyanggup Isa Almesih tuhan enggau pinglepas kitai*”（B.F.B.S. ロンドン）

1963 ボルネオ福音教会が形成される

1968 元S.P.G.の諸教派聖書翻訳委員会の訳による出エジプト記（謄写版）
（委員会メンバーは英国国教会のBasil Temengong, Ngitar Mai, Alfred Chabu, カトリックのJ. Aker, 合同メソヂストのStanley Bain, Burr Baughman, Vinson Sutlive, Joshua Bunsu, Lucius Mamora.）

1978 イバン語新約聖書“*Penyanggup Baru: iya nya surat ti madah ka Penyanggup Isa Almesih Tuhan Enggau Pinglepas Kitai*”（シンガポール・マレーシア・ブルネイ聖書協会 シンガポール）

1981 イバン語新約聖書“*Berita manah ka rebak diatu : Sempekat Baru dalam joko Iban*”（シンガポール・マレーシア・ブルネイ聖書協会 シンガポール（場所不明））

1988 イバン語旧新約全書出版“*Bup Kudus—Berita Manah Ka Rebak Diatu Sempekat Lama enggau Sempekat Baru*”（マレーシア聖書協会 マレーシア）

1990 “*Bup Kudus*” 第2刷（マレーシア聖書協会 マレーシア）

1992 “*Bup Kudus*” 第3刷（マレーシア聖書協会 マレーシア）

1994 “*Bup Kudus*” 第4刷（マレーシア聖書協会 マレーシア）

1996 “*Bup Kudus*” 第5刷（マレーシア聖書協会 マレーシア）

1997 “*Bup Kudus*” 第6刷（マレーシア聖書協会 マレーシア）

2001 “*Bup Kudus*” 第7刷（マレーシア聖書協会 マレーシア）

（注）S.P.G. = Society for the Propagation of the Gospel 福音伝道協会
S.P.C.K.=Society for Promoting Christian Knowledge キリスト教知識普及会
B.F.B.S.=British and Foreign Bible Society 英国聖書協会
（出所 “*Historical Catalogue of the Printed Editions of Holy Scripture*”（1963）
“*The Book of a Thousand Tongues*”（改訂版）（1972）
“*Christianity In Malaysia: A Denominational History*”（1992）
英国図書館のオンライン検索
アメリカ合衆国議会図書館のオンライン検索
日本聖書協会聖書図書館のオンライン検索）

資料 3. イバン語とマレー語訳のキリスト教出版物禁書15冊のリスト⁸⁴⁾

733 P.U. (A) 83.				
SCHEDULE				
Title of Publication	Compiler	Publisher	Printer	Language
1. Metode Penelaahan Alkitab	Dick & Tinem Maltimoe	Persekutuan Pembaca Alkitab, Jalan Cempaka Putih Tengah 11/1, Blok D-8 Jakarta-10510	Persekutuan Pembaca Alkitab, Jalan Cempaka Putih Tengah 11/1, Blok D-8 Jakarta-10510	Malay
2. Bup Kudus	—	The Bible Society Of Malaysia	The Bible Society Of Malaysia	Iban
3. Mengenal Tulisan Perjanjian Baru	I. Suharyo Pr.	Penerbit Kanisius Jalan Cempaka 9 Deresan Yogyakarta	Penerbit Kanisius Jalan Cempaka 9 Deresan Yogyakarta	Malay
4. Sejarah Kerajaan Allah Jilid 1/2 Perjanjian Lama	Dr. F.L. Bakker	P.D. Nilakandi	P.D. Nilakandi	Malay
5. Sejarah Singkat Liturgi Barst	Theodor Klausner	Penerbit Kanisius Jalan Cempaka 9 Deresan Yogyakarta 55281	Penerbit Kanisius Jalan Cempaka 9 Deresan Yogyakarta 55281	Malay
6. Seri Pemahaman Doktrin Alkitabiah: Manusia Baru	Jl Packer MA, D. Phill	Persekutuan Pembaca Alkitab Jalan Cempaka Putih Tengah 11/1, Blok D-8 Jakarta 10510	Persekutuan Pembaca Alkitab Jalan Cempaka Putih Tengah 11/1, Blok D-8 Jakarta 10510	Malay
7. Seri Pemahaman Doktrin Alkitabiah: Dunia Kepunyaan Allah	Arthur E. Cundall BA, BD	Persekutuan Pembaca Alkitab Jalan Cempaka Putih Tengah 11/1, Blok D-8 Jakarta 10510	Persekutuan Pembaca Alkitab Jalan Cempaka Putih Tengah 11/1, Blok D-8 Jakarta 10510	Malay
8. Surat-surat Paulus 2	Lembaga Biblika Indonesia	Penerbitan Kanisius Jalan Cempaka 9 Deresan Yogyakarta 55001	Penerbitan Kanisius Jalan Cempaka 9 Deresan Yogyakarta 55001	Malay
9. Tafsiran Alkitab Wahyu Yohanes 1	Drs. J.J. de Heer	Percetakan BPK Gunung Mulia	Percetakan BPK Gunung Mulia	Malay
10. Belajar Berjalan	Charlie Riggs	Persekutuan Pembaca Alkitab	Persekutuan Pembaca Alkitab	Malay

P.U. (A) 83/03				
Tajuk Hasil Penerbitan	Pengarang	Penerbit	Pencetak	Bahasa
12. Memahami Isi Alkitab	John R.W. Stott	Persekutuan Pembaca Alkitab Jalan Cempaka Putih Tengah 11/1, Blok D-8 Jakarta 10510	Persekutuan Pembaca Alkitab Jalan Cempaka Putih Tengah 11/1, Blok D-8 Jakarta 10510	Melayu
13. Bekal Hidup	—	CV Haji Masagung Jalan Kwitang No. 8 Jakarta 10420	CV Haji Masagung Jalan Kwitang No. 8 Jakarta 10420	Melayu
14. Doa Santap	Sr. Bernadette PMY	Penerbit Kanisius Jalan Cempaka 9 Deresan Yogyakarta 55281	Penerbit Kanisius Jalan Cempaka 9 Deresan Yogyakarta 55281	Melayu
15. Seri Pemahaman Doktrin Kebenaran	William L. Lane Th. D	Persekutuan Pembaca Alkitab Jalan Cempaka Putih Tengah 11/1, Blok D-8 Jakarta 10510	Persekutuan Pembaca Alkitab Jalan Cempaka Putih Tengah 11/1, Blok D-8 Jakarta 10510	Melayu
Dibuat 5 Mac 2003 [KDN: UKP(S) 600-2/1; PN(PU ²)417/VI]				
DATO' SERI ABDULLAH BIN HAJI AHMAD BADAWI Menteri Dalam Negeri				
PRINTING PRESSES AND PUBLICATIONS ACT 1984				
PRINTING PRESSES AND PUBLICATIONS (CONTROL OF UNDESIRABLE PUBLICATIONS) ORDER 2003				
In exercise of the powers conferred by subsection 7(1) of the Printing Presses and Publications Act 1984 [Act 301], the Minister makes the following order:				
Citation				
1. This Order may be cited as the Printing Presses and Publications (Control of Undesirable Publications) Order 2003.				
Prohibition				
2. The printing, importation, production, reproduction, publishing, sale, issue, circulation, distribution or possession of the publications which are described in the Schedule and which are prejudicial to public order are absolutely prohibited throughout Malaysia.				

資料 4. 内務省から全キリスト教出版社宛のマレーシア語の語彙使用に関する
公的通知

KEMENTERIAN DALAM NEGERI
(BAHAGIAN KAWALAN PENERBITAN)
TINGKAT 1, BANGUNAN STRAITS TRADING
LEBOH PASAR BESAR, PETI SURAT 10382
50712 KUALA LUMPUR.

11/11/86

RECEIVED

Tel: 2931322/2994717

Ruj. tuan :

Ruj. kami : KDN: S.59/3/9/A Klt. :
- (17)

Kepada :

Tarikh : 11hb Disember, 1986.

Semua Penerbitan Agama Kristian

Tuan/Puan,

Penggunaan Istillah/Perkataan Yang Digunakan
Dalam Penerbitan Agama Kristian Berbahasa Malaysia.

Adalah saya diarah merujuk kepada perkara di atas berhubung dengan kekeliruan dikalangan masyarakat tentang istillah/perkataan yang merujuk kepada agama Islam yang juga digunakan dalam penerbitan agama Kristian dalam Bahasa Malaysia.

2. Adalah dengan ini diberitahu iaitu Kerajaan telah memutuskan perkataan dibawah ini boleh digunakan dalam penerbitan agama Kristian :-

1. Al-Kitab

2. Firman

3. Rasul

4. Syariat

5. Iman

6. Ibadah

7. Injil

8. Wahyu

9. Nabi

10. Syukur

11. Zikir

12. Doa

Sekiranya penerbitan tersebut berbentuk buku atau risalah yang hendak disebar atau dijual perkataan "UNTUK AGAMA KRISTIAN", disyaratkan ditulis di kulit luar (muka depan) buku atau risalah tersebut.

3. Perkataan yang tidak boleh dipakai atau digunakan dalam semua penerbitan Kristian di negara ini ialah :-

- 2 -

1. Allah

2. Kaabah

3. Baitullah

4. Solat

Untuk makluman, Majlis-majlis Agama Islam Negeri-negeri dalam hal ini mempunyai bidang kuasanya untuk memutuskan perkara berkaitan dengan hal ehwal Agama Islam bagi negeri masing-masing.

4. Tujuan Kerajaan mengambil ketetapan berhubung dengan istilah/perkataan serta syarat di atas kepada penerbitan Agama Kristian adalah semata-mata untuk menjaga ketenteraman awam dan mengelakkan berlakunya salah faham diantara umat Islam dengan penganut-penganut ugama Kristian. Oleh itu tuan/puan adalah deng ini diingatkan supaya mematuhi arahan Kerajaan dalam semua bentuk penerbitan agama Kristian yang diterbitkan.

Sekien, dimaklumkan.

" BERKHIDMAT UNTUK NEGARA "

Saya yang menurut perintah,

(HASSAN BIN JANTAN)
b.p. Ketua Setiausaha,
Kementerian Dalam Negeri.

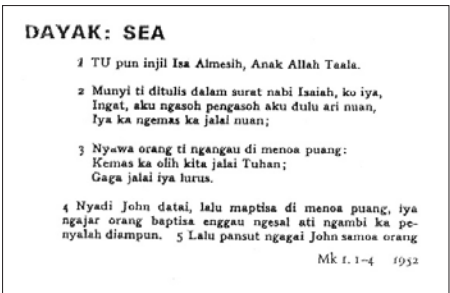
S.k.

Pengarah Cawangan Khas,
Ibu Pejabat Polis Diraja Malaysia,
Bukit Aman,
50560 KUALA LUMPUR.

(u.p: Encik Zainul Azmi bin Hj. Zabidi)

1). A paper to the P.M - on the campaign.

資料 5. 海ダヤク/イバン語聖書の部分サンプル



マルコ福音書1章1-4節 (1952)
(出典 “*The Book of a Thousand Tongues*” p.105)



創世記1章1-5節
(出典 “*Bup Kudus—Berita Manah Ka Rebak Diatu*” (2001) p.1)



マルコ福音書1章1-8節
(出典 “*Bup Kudus—Berita Manah Ka Rebak Diatu*” (2001) p.48)



ヨハネ福音書1章1-9節
(出典 “*Bup Kudus—Berita Manah Ka Rebak Diatu*” (2001) p.129)

資料 6. 代理首相とキリスト教代表者との密室会談



(出所: <http://www.ccmalaysia.org>.)

日時: 2003年4月22日 (一時間)
場所: プトラジャヤ
出席者 (*肩書きは当時のもの)

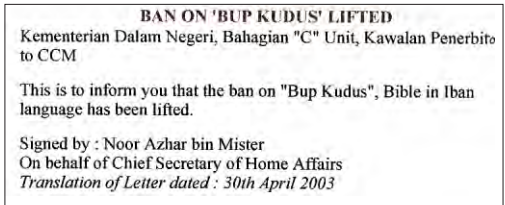
中央前: Dato’ Seri Abdullah bin Haji Ahmad Badawi (代理首相兼内務大臣)*
後列左側から:

- Rev. Dr. Hermen Priyaraj Shastri (CFM役員兼CCM幹事)
- Rev. Aeries Sumping Jingan (サラワク州イバン人アングリカン司祭兼サラワク教会協会所属)
- Rev. Mathew Ubun (サラワク州イバン人アングリカン大執事)
- Archbishop Most Rev. Anthony Soter Fernandez, D.D. (カトリック司教会議会長兼クアラルンプール大司教)*
- Rev. Jonathan Jelanding Munting (サラワク州イバン人メソディスト協議会会長)
- Mr. Kong Yeng Phooi (マレーシア聖書協会役員)
- Mr. Loo Jana (イバン人一般信徒)

前列左側から:

- Bishop Rt. Rev. Tan Sri Datuk Dr. Lim Cheng Ean (CFMの役員兼CCM副会長)
- Rev. Lawrence Banyie (サラワク教会協会議長)
- Rev. Datuk Dr. Prince Guneratnam (CFM議長兼NECF議長)
- Rev. Wong Kim Kong, J.M.N. (CFM事務官長兼NECF事務局長)

資料 7. 内務省によるイバン語聖書の禁止解除の通知



(出所：http://www.ccmalaysia.org.)

資料 8. イバン語で神性を意味する 3 語彙（‘petara’ ‘Entala’ ‘Allah Taala’）

- petara (p.281)
(Skr., *pitr*; ‘ancestors’).
1. Deity (*juata*) esp. of the heavens (*langit*) and invoked for help to men (*mensia*) at *gawai*, who may appear in assumed form. Pron. *batara* might derive from Skr. *bhatta*, ‘holy’; or Skr. *avatara*, ‘descent’ (manifestation from on high), but *pitr* is most likely. Banks and Perham both give an Indian origin and equate deities:
2. Supreme deity, Creator, *Entala*, *Keri* (BIKU) *Raja P.P.* had ‘sisters’ :

Entala (p.88)
(Ar., *Allah Taala*) *Raja E.*, Creator, God, *Keri Raja Petara*. *Raja E.* is a soul with senses and will but no corporeal members, who created two birds called *Ara* and *Iri*’.

Allah Taala (p.6)
(Ar., ‘God Most High’) (Christian) God : ENTALA.

(出典 “*An Iban-English dictionary*” (1981))

資料 9. キリスト教で ‘Allah’ ないしはそれに類する語彙を用いる言語

- Ala: Kambara, Koalib, Krongo, Nirere, Nuba, Wajewa
Alatalla: Dayak, Manyan
Alla: Bambara, Eggon, Kuranko, Madurese, Maltese, Mandingo, Maninka, Soso, Yalunka
Allach: Gagauzi, Turkish
Allah: Algerian Arabic, Arabic, Balantian, Bentuni, Bisaya, Eggon, Fulani, Goulei, Hausa, Indonesian, Javanese, Judeo-Arabic, Kabba Laka, Kabyle, Kazan, Kumuk, Macina, Madjingai, Malay, Mbai, Murut, Ngambai, Nogai, Palestinian Arabic, Pashto, Sara, Sasak, Shilha, Sundanese, Syriac, Transcaucasian, Turkish
Allah Taala: Land Dayak, Sea Dayak
Allaha: Fula, Futa-Jalon, Macina
Allahi: Egyptian Arabi, Tunisian Arabic
Allahu: Hebrew, Moorish
Alla-taala: Bugis, Macassar

(出典 “*World Christian Encyclopedia : A Comparative survey of churches and religions in the modern world*” 第1巻 (第2版) 表9-12 「900言語の神の名」 p.252.)

資料 10. イバン語聖書の ‘Allah Taala’ と ‘Tuhan’ の用法に関する説明



(出典 “*Bup Kudus–Berita Manah Ka Rebak Diatu*” (2001))

資料 11. 聖書翻訳における神の呼称

マレーシア聖書協会の応答

(2003年9月-11月号の “*The Engager*” 掲載記事 ‘The Aftermath of Lifting of [sic] the Iban Bible Ban(Part II)’ (pp.1-2.)からの抜粋) (注:紙面の都合上、文や語彙は筆者によって一部変更されている)

- 質問: 混乱を避けるために ‘Tuhan’ の語にしたらどうでしょうか。
答え: 歴史的に、この地域のクリスチャン達は神性を指すのに ‘Allah’ と ‘Tuhan’ という語を用いてきました。ですから、今回の件で変更するわけにはいかないのです。その理由を以下に3点あげましょう。
1. イスラーム到来以前から、アラブのクリスチャン達はアラビア語の呼称 ‘Allah’ を神の礼拝に用いていました。古代のそして現代のアラビア語聖書やアラビア語のキリスト教文献は、神を指すのに長らく ‘Allah’ という呼称を使ってきたのです。
2. どの宗教集団もある言語や語彙を占有することはできません。話者が異なれば、特定の用語に対して違った意味合いが付与されたりその重みが増えたりするものの、一般的にことばはその使用者に属するものです。単にクリスチャンが長年にわたり ‘Allah’ という語を用いてきたからといって、他の人々がそれを用いることを阻むわけにはいきません。その逆もまたしかりです。
3. 各地のクリスチャン達に ‘Allah’ と ‘Tuhan’ の呼称がかなりの期間使われてきたので、これらの用語を他の語彙に変更したり、二つの呼称を一つに統合したりする試みは、単に聖書の根拠にとって不正であるばかりでなく、教会内に混乱を作り出すでしょう。この結果、そのような聖書翻訳は拒絶されてしまうかもしれません。

聖書翻訳における神の呼称のリスト

	ヘブライ語	ギリシア語	英語	マレー語/インドネシア語等
General title	el/elohim	theos	God	Allah
Divine name	YHWH	kurios	LORD	TUHAN
General term	adon/adonay	kurios	Lord	Tuhan

- 1) 英語では 'God Most High' という訳語に相当する。
- 2) 詳細は、綱島 (2003: 108-112, 118-122)。
- 3) インドネシア語聖書の禁止は、キリスト教側の数次に及ぶ抗議の後、部分的に解除され、教会とクリスチャンのみ聖書を所有することができるようになった (Chew 2000: 280)。
- 4) “*Siaran Perangkaan Bulanan (Monthly Statistical Bulletin) Malaysia*”, Mac (March) 2003, Table 2.1., p.7.
- 5) ただし、通婚によりマレー人共同体に吸収されたアラブ人もいる。その場合はマレー人とみなされる。
- 6) “*Information Malaysia 1995 Yearbook*”, p.51. 1969年5月13日に首都クアラルンプールで発生したマレー人と華人の民族衝突事件以降、新経済政策 ((Dasar Ekonomi Baru) が施行された。この政策は、ブミブトラに社会経済的特権を付与するもので、事実上、ブミブトラ政策である。換言すれば、非ブミブトラはこの政策下で同等の特権を享受できず、社会上の不平等から不満と苛立ちを抱いている。
- 7) “*Siaran Perangkaan Bulanan (Monthly Statistical Bulletin) Malaysia*”, Mac (March) 2003, Table 2.1., p.7.
- 8) “*Information Malaysia 2002 Yearbook*”, p.79. 非マレーシア国民は除く。
- 9) “*Siaran Perangkaan Bulanan (Monthly Statistical Bulletin) Sabah*”, Mei (May) 2003, Table 2.1., p.9.
- 10) “*Siaran Perangkaan Bulanan (Monthly Statistical Bulletin) Sarawak*”, Mei (May) 2003, Table 2.5., pp.20-1.
- 11) 本稿では、「マレーシア語 ('Bahasa Malaysia') 」と「マレー語」の呼称をそれぞれ文脈に応じて使い分けている。前者は、もっぱら非マレー人に受け入れられ、一般に国民的文脈で用いられる呼称である。後者は、「ムラユ語 ('Bahasa Melayu') 」の呼称と共に、広くマレー人共同体に好まれる。本稿において、筆者が「マレー語」という呼称をその他の文脈で使う際には、純粋に言語学的な理由に基づいているものである。詳細は綱島 (2003: 107-8) でも言及されている。
- 12) Federal Constitution (Perlembagaan Persekutuan), Article 3. Religion of the Federation. (1) Islam is the religion of the Federation; but other religions may be practised in peace and harmony in any part of the Federation. Article 11. Freedom of religion. (1) Every person has the right to profess and practise his religion and, subject to Clause (4), to propagate it. (4) State law and in respect of the Federal Territories of Kuala Lumpur, Labuan and Putrajaya, federal law may control or restrict the propagation of any religious doctrine or belief among persons professing the religion of Islam. (“*Federal Constitution*”, 2002, p.13, p.19)
- 13) “*Banci Penduduk dan Perumahan Malaysia 2000 (Population and Housing Census of Malaysia 2000)*”, Table 4.1., p.70.
- 14) Federal Constitution (Perlembagaan Persekutuan), Article 160. Interpretation. “Malay” means a person who professes the religion of Islam, habitually speaks the Malay language, conforms to Malay custom and— (a) was before Merdeka Day born in the Federation or in Singapore or born of parents one of whom was born in the Federation or in Singapore, or is [sic] on that day domiciled in the Federation or in Singapore; or (b) is the issue of such a person. (“*Federal Constitution*”, 2002, pp.141-2.)
- 15) “*Information Malaysia 2002 Yearbook*”, p.28.
- 16) *Ibid.* p.28.
- 17) マレーシアのキリスト教の教派史については、Robert Hunt, et al. (1992) に詳しく述べられている。ボルネオ島のカトリック宣教史については、John Rooney (1981) が詳細な記録を残している。他にNgoh (1994: 70-129) も参考になる。
- 18) “*Banci Penduduk dan Perumahan Malaysia 2000 (Population and Housing Census of Malaysia 2000)*”, Table 4.1., p.70.
- 19) Hompej Jabatan Perangkaan Malaysia (Homepage of the Department of Statistics, Malaysia) 2000.
- 20) Andaya and Andaya (1982: 154-5) を参照のこと。なお、この条約に対するキリスト教宣教師の反応については、Ngoh (1994: 117-120) が言及している。
- 21) 2004年7月28日付 “*Asia Times Online*” のIoannis Gatsiounis氏署名による ‘Malaysia makes its case on conversion.’ と題する記事には、マレー人に対する活発なキリスト教の改宗勧誘が報告されている。ある匿名の牧師は次のように述べたという。「私の仕事は神の意志であり、そのために戦う価値のある理由がある。(マレー人は)[ママ] イエスを見出す権利がある。」記事は続く。「この牧師の福音派教会は、マレーシア中に12の支部を持ち、30の提携グループを持っている。」牧師の推定では「マレーシアでは毎月100人のムスリムがキリスト教を受け入れている」という。当記事によれば、キリスト教団体は、3万人のマレー人改宗者がいると見積もっているが、ムスリム諸団体は、その数値はかなり低いと主張しているとのことである。しかしながら、「多くの改宗者は政府や家族や仲間のマレー人からの嫌がらせを恐れて、密かに暮らしていると言われている。」本記事の内容がどの程度正確なものか、個人的には疑わしく思う。筆者がこれまでにマレーシアで出会ったクリスチャンの大多数は、マレー人以外の人々の間でのみ宣教活動を許可するマレーシアの法律を尊重し、それに従っていたからである。もっとも中には、マレー人とキリスト教信仰を分かち合えないことに内心ディレンマを感じている人も若干いた。(“*Asia Times Online*” は、アジアからの発信を主眼として1999年に設立され、インターネット版の出版物として香港で登録されている。)
- 22) 広く知られた過去の事例2件がある。(1)キリスト教に改宗したマレー人のJoshua Jamaluddin氏が、1987年にISA(国内治安法)で拘禁され、厳しい拷問を受けた。当局の役人は、彼からキリスト教信仰を撤回するよう強いたが成功しなかったので、事実上、国外退去をするという条件で解放した。現在、彼はニュージーランドで暮らしているという。(2) Ashley Lopez氏の妻は、メッカ巡礼者の称号を持つムスリムの娘であったが、平型捺印証書によってイスラーム信仰を放棄し、新しい宗教としてカトリシズムを選択した。夫妻はカトリック信仰を続けるために、ニュージーランドに保護を求めた。これらの事例は、2004年7月1日付 “*Malaysiakini.com*” でChacko Pannicker氏署名の ‘Malaysian religious conundrums.’ と題する記事に再掲された。
- 23) 本稿では「海ダヤク」は「イバン」と同義である。イバン人は以前、海ダヤク人として知られ、主にサラワク州の第二省と第三省に集中している。
- 24) マレーシア聖書協会(The Bible Society of Malaysia (BSM). マレーシア語名は ‘Pertubuhan Bible Malaysia’) の組織としてのルーツは1815年に遡る。当時、英国聖書協会およびアメリカ聖書協会が、マラヤでの活動を開始した。1957年にマラヤ聖書協会は、スコットランド聖書協会と英国聖書協会と共に、マラヤ独立(ムルデカ)を祝った。1967年10月、マラヤ聖書協会は、マレーシア・シンガポール・ブルネイ聖書協会と改称したが、当時の活動はスコットランドや英国の聖書協会と協力体制にあった。1971年11月、協会はシンガポールに事務局を構えた。1983年8月9日、当協会はマレーシア聖書協会として、マレーシア政府に登録を申請した。1985年11月には政府から公に登録が承認された。1996年1月、聖書協会世界連盟から提携会員としての資格を得た後、2002年9月からは正会員となった。
- 25) 2003年6-8月号 “*The Engager*” (Vol.2 Number 3) p.1.
- 26) 例えば、インド出身のクリスチャンでイスラーム研究者のDr. Theodore Gabrielはその著書で、統一イスラームルネッサンス運動のBINA (Angkatan Nahadathul Islam Bersatu) について言及している(Theodore 1996: 45, 50)。BINAは、ダアワ(イスラームへの呼びかけ)を拡大するイスラーム組織の前線であると自ら名乗り、奥地の先住民族を主に対象とする。氏によれば、BINAの冊子には、クリスチャンがイスラーム改宗した事例が2, 3載っていたとのことである(p.64)。Ghazali Basri (1999: 101) は、クリスチャン家庭がイスラーム改宗した幾つかの事例について、BINAがノバイオニア的成功を収めたと述べている。
- 27) “*Banci Penduduk dan Perumahan Malaysia (Population and Housing Census of Malaysia 1991), Laporan Am Banci Penduduk (General Report of the Population Census)*”, Jilid (Volume) 1, Jadual 3.9., p.77 (Table 3.9., p.74) .
- 28) 2004年5月28日付 “*Asia News. it*” のPiero Gheddo氏署名による ‘Borneo: A new Church is born among the Dayak.’ と題する記事。
- 29) *Ibid.*
- 30) この人々は、カトリック、メソディスト、ボルネオ福音教会、セブンスデー・アドベンティスト、アングリカンなど様々な教派に所属している。アングリカンのクリスチャンは、特にイバン人知識人に多く見られるという(Ghazali 1999: 95)。

- 31) “*Siaran Perangkaan Bulanan (Monthly Statistical Bulletin) Sarawak*”, Mei (May) 2003, Table 2.5., p.20.
- 32) マレーシア聖書協会オフィスにおけるDr. Yu Suee Yan(2003年8月8日)とDr. Victor Wong(同年8月12日)との筆者面談による。
- 33) Dato’ Seri Abdullah bin Haji Ahmad Badawiは、1999年1月、副首相兼内務大臣に任命された。本件が国内メディアで報道された2003年4月9日の時点では、第4代首相Tun（当時はDato’ Seri）Dr. Mahathir bin Mohamadの後継者として、2ヶ月間代理首相を務めていた。2003年10月31日付で、氏は第5代マレーシア首相に就任した。ペナン州の有名なイスラーム家系の出身で、1964年にイスラーム学の学士号(優等)を得てマラヤ大学を卒業し、穏健なムスリム指導者として定評がある。ただし、中等教育課程期間中、ペナンのメソディスト男子校で学んだという経歴を看過することはできない。マラヤあるいはマレーシアの教育史において、メソディスト系ミッション校は、諸民族が共に学ぶ環境をはぐくみ、在学中のキリスト教への改宗はなかったものの、マレー人卒業生から各方面での卓越した指導者を輩出したという点で、極めて重要な役割を果たした。氏は現在、その政治的指導力によって、世俗的な連邦憲法の下、現代的で先進的なイスラーム統治を創出しようとしている。
- 34) イスラーム関連書籍が禁止になった理由は明らかではない。筆者の知る限り、これに対するムスリム側からの抗議はなかった模様である。その他のキリスト教関連書籍14冊は、英語からマレー語に翻訳されたものであるが、恐らく禁止理由は‘Allah’という用語が使われたためであろう。原書の英語版は、国内で問題なく販売されているとのことである。この14冊が解禁になったかどうかは、本稿執筆の時点では不明である。
- 35) 2003年4月8日付午後21時33分発信の‘Home Ministry Bans 35 Books.’「ブルナマ」は、1968年5月にマレーシアの国営報道機関として設立された。
- 36) 2003年4月9日付“*New Straits Times Online*”の記事‘Home Ministry bans 35 books.’
- 37) 2003年4月9日付“*The Star Online*”の記事‘35 books, detrimental to public peace, banned.’
- 38) 2003年4月9日(7 Safar 1424)付“*Utusan Malaysia Online*”(英語版)の記事‘Home Ministry bans 35 books.’
- 39) 2003年4月9日(7 Safar 1424)付“*Berita Harian Online*”の記事‘35 penerbitan diharam.’
- 40) 2003年4月9日付“*The Straits Times*”の記事‘35 Books Banned On Peace Grounds.’
- 41) 筆者の知る限り、輸出元であるインドネシアのキリスト教系出版社は、本件について抗議の声を上げなかった。恐らくは、両国の微妙な外交関係によるところが大きいだろう。また、インドネシアのクリスチャン達は、キリスト教ネットワークを経由してこのような状況に慣れているという事情もある。
- 42) 2003年8月12日のDr. Victor Wongとの著者面談による。
- 43) 地元のキリスト教グループの中で、ボルネオ福音教会(Sidang Injil Borneo)がイバン語への聖書翻訳に最も貢献している。現在、2人のフルタイムの翻訳者と7人の校閲者が、イバン語聖書の第二版に関わっていて、2005年までには完成予定である。現行の聖書は、革製のものが一冊68リンギット、ソフトカバー版が一冊26リンギットである。2003年8月12日時点で、聖書協会所蔵の2003年度用イバン語聖書は、2,572冊であるとのことである(Dr. Yu Suee Yan(2003年8月8日)とDr. Victor Wong(同年8月12日)との筆者面談による)。
- 44) 2003年4月-6月号“*Berita CCM*”の記事‘Documents relating to the Iban Bible Saga.’ p.9.
- 45) *Ibid.* p.8.
- 46) 2003年4月17日付“*CNS News.com.*”のPatrick Goodenough氏署名による記事‘Bible Ban Shock in Southeast Asian Democracy.’
- 47) 当初は、本通知の16語彙すべての使用が許可されなかったが、キリスト教側の強い抗議の後、12語彙を用いる際、表紙に‘Untuk Agama Kristian’(キリスト教用)の表示を付けることを条件として、禁止用語の数は4語彙に縮小された。現在、マレーシア語の聖書やキリスト教文献は、たいてい禁止されている4語彙のうち‘Kaabah’‘Baitullah’‘Solat’の使用は避け、他の用語に置き換えている。それは、地元のクリスチャン達の方も、これらの語彙をイスラーム的であるとして受け入れないからである。華人クリスチャンで法律

- 専門家のPhilip Koh Tong Ngee(1987: 23)は「内務省の公的書簡は法的効力を有せず、せいぜいこの問題についての行政官の見解を証拠づけているに過ぎない」と述べる。語彙の制約問題に関しては、次の文献でも言及されている。*Catholic Asian News*(May 1988: 2-3, 7-8), *Catholic Asian News*(October 1988: 5-6, 31), Shastri(1989: 120), Means(1991: 104,109), Ghazali(1992: 37),奥村(1993: 230), Ngoh(1994: 152-160), Cassian(1996: 70), Ho(1996: 266), Chew(2000: 280-1), *Berita NECF*(May-June 2003: 3) 綱島(2003: 108-9, 118-120)。興味深いことに、長年エルサレムで英国国教会の主教を務めたRt. Rev. Prof. Dr. Kenneth Craggも、イスラームとキリスト教で共有されるアラビア語の宗教用語の不等性について、マレーシアの事例を引用して言及している(Cragg 1991: 285, 300)。
- 48) しかしムスリムにとって最も侮辱的で論争的となるのは、聖書中の‘Anak Allah’(神の子)ではないかと思われる。
- 49) サラワク教会協会による声明に署名した指導者とその所属教会は、次の通りである。Lawrence Banyie牧師(セブンスデー・アドベンティスト)、Made Katib司教(アングリカン)、Dato’ Sri Peter Chung大司教(カトリック)、Jonathan Jelanding牧師(メソディスト)、Ting Daik Choung牧師(メソディスト)、Kalip Besar牧師(ボルネオ福音教会)。2003年4月10日付で「イバン語の聖書禁止について」と題するプレス声明を出したのは、Julius Paul司教(マレーシア教会協議会会長兼マレーシア福音ルーテル教会司教)とDr. Hermen Shastri牧師(マレーシア教会協議会幹事兼メソディスト牧師)である(2003年4月-6月号“*Berita CCM*” pp.8-9)。これらの声明に続き、サラワク教会協会シブ支部(The Association of Churches, Sibul Branch)も2003年4月17日付で共同声明を出した。署名者は、Mathew Ubun大執事、Johnny Gangkok師、Latan Ambai師(以上アングリカン)、Jonathan Jelanding牧師(メソディスト)、Melai Belingau牧師(ボルネオ福音教会)、Dominic Su司教、Temenggong Adrian Ringau師、Michael Ili師、Justin Balang師(以上カトリック)である(2003年4月19日付“*Sarawak Tribune*”の記事‘Local church leaders appeal for lifting of ban.’)。サラワク教会協会は‘The Association of Churches in Sarawak’の訳語で、マレーシア語名は‘Persatuan Gereja-Gereja di Sarawak’である。これは1991年1月に形成された(Ghazali 1994a: 3)。マレーシア教会協議会は‘Council of Churches of Malaysia(CCM)’の訳語で、マレーシア語名は‘Majlis Gereja-Gereja Malaysia’である。ルーツは、1947年に成立し、1948年1月9日に公に活動を開始したマラヤ・キリスト教協議会に遡る。当時は、17教派からなるエキュメニカル諮問組織であった。1967年に、マレーシア・シンガポール教会協議会と改称した。1975年には、マレーシア教会協議会と再び改称した。会員は、アングリカン教会、パーゼル・キリスト教会、福音ルーテル教会、ルーテル教会、メソディスト教会、シリア正教会、マルトマ・シリア教会、長老教会、サバ・プロテスタント教会、救世軍、マレーシア聖書協会、少年隊、少女隊、マレーシア援助会、YMCA、YWCA、マレーシア神学院、サバ神学院である。
- 50) 2003年4月17日付“*Malaysiakini.com*”の記事‘Bar: Iban Bible ban vague and ominous.’ 2003年4月18日付“*New Straits Times Online*”の記事‘Bar Council: Lift ban on Bup Kudus immediately.’
- 51) “*Malaysiakini.com*”は、1999年11月20日に始まったマレーシア初の独立系オンライン・メディアである。主幹編集者はSteven Gan氏。通常、国内の印刷媒体メディアは、当局に管理され、検閲されたり政党に所有されたりしているが、当紙は、マレー語と英語を使用して自由に客観的な見解を提供しているという点で、パイオニア的であると言われている。また、さまざまな民族的、宗教的、イデオロギー的背景を持つ読者からの活発な投稿および外国の執筆者も含まれている。2002年9月に、スタッフは週刊印刷版の発行を申請したが、今のところ首相からの返答はないという。2003年11月20日の時点で、読者は10万人以上、2004年8月には一日5万人のサイト訪問者を計上した。
- 52) 例えば、2003年4月21日付 Umar Mukhtar氏投稿の‘We’re not taught to hate Jews.’ 2003年4月24日付 HF氏投稿の‘Why not use Iban word for “Allah” in Bible translation?’ 2003年4月28日付 PM氏投稿の‘The word “Allah” is not the monopoly of Muslims.’ 同日付 Al-han氏投稿の‘Bible not an equivalent to Quran.’ 同日付 West Malaysian Muslim氏投稿の‘Islam is submission to God, regardless of race or language.’ 2003年4月29日付 Arbibi Ashoy氏投稿の‘Use “Allah” only in the Arabic bible.’ 2003年5月7日付 Islamic Monotheist氏投稿の‘Muslim use of “Allah” is specific.’ 等。
- 53) Dr. Victor Wongによれば、外国のキリスト教宣教師達が、バングラデッシュのムスリムにキリスト教を説明するのに、このような「イスラーム的」用語を用いるとのことである(2003年8月12日の筆者面談より)。Lim Siew Foong氏の話では、現在、用語問題について話し合いの最中であるという(2003年8月12日マレーシア福音派キリスト教交流会オフィスでの筆者面談より)。

- 54) 氏は、社会経済開発研究所 (SEDAR) という独立系シンクタンクの上級政策アナリストである。氏の主張によれば、「一週間足らずで、署名は1,500にも達した」(Ong 2003: 7) とのことであるが、筆者の記録では、後述の密室会談が行われた後の2003年4月24日午後9時25分の時点で、計1,035名の署名を集めたのみである。2003年5月9日になって1,506名の署名を計上し、その数値のまま6月1日まで続いた。つまり、公的な解禁の通知後も署名は続けられたということである。今は、このウェブサイトは閉鎖されている。本件に関する氏の意見は、2003年4月28日付 “*Malaysiakini.com*.” の署名投稿 ‘What about other banned Christian books?’ に詳しい。
- 55) 氏は、嘆願署名を印刷したものを非公式に当局に手渡したという。
- 56) 詳細は、「参考文献」欄の「ウェブサイト記事」を参照のこと。
- 57) カトリックの華人である氏は、ムスリムにも配慮し、なぜ20冊のイスラーム関連書籍が禁止になったかの説明を、当局に対して求めている。
- 58) 他のエスニック政党は、本件について直接的には関心を示さなかった模様である。
- 59) マレーシア福音派キリスト教交流会は ‘National Evangelical Christian Fellowship of Malaysia (NECF)’ の訳語で、マレーシア語名は ‘Persaudaraan Kristian Evangelical Nasional Malaysia’ である。発端は、1982年3月21日に41人の福音派クリスチャンがブタリン・ジャヤのルーテル・ハウスに交流目的で集まったことに起因する。1983年5月に公的登録された。現在、2,500教会に50万人信徒を有するという。
- 60) 2003年4月23日付 “*The Star Online*” の記事 ‘Christian group gives RM 100,000.’ 同日付 “*Sarawak Tribune*” の記事 ‘Christian group donates M [sic]100,000 to Iraq Fund.’ キリスト教組織からの政府に対する献金は、今回が初めてではない。過去にも例えば、トルコ、パレスティナ、アフガニスタンなどムスリムが多数派を占める国々で災害や騒動が発生した場合にも、何度か献金をしている。
- 61) 伝統的な「神」概念を指すイバン語の語彙 ‘petara’ については Edwin H. Gomes (1911: 194-8) に詳しく述べられている。氏によれば、‘petara’ はイバン語で神性を指し示す唯一の単語であるが、その意味内容は、超自然的であるものの最も人間に似た存在であるという。Asmah Haji Omar (1981: 3-4) は、‘petara’ はジャワ文化あるいはヒンドゥ教の影響を示していると述べている。
- 62) 代理首相とキリスト教代表者との密室会談を取り次いだ3人のイバン人クリスチャン大臣は次の通りである。1. Datuk Amar Leo Moggie anak Irok (カトリック・エネルギー通信マルチメディア省大臣)* 2. Datuk Douglas Uggah Embass (アングリカン・首相府副大臣)* 3. Tan Sri Datuk Amar Dr. Alfred Jabu anak Numpang (アングリカン・州副知事兼地方土地開発省大臣)*(注: *肩書きは当時のもの)。これは、当局とよりよいコミュニケーションを容易にするためのキリスト教側の方略でもある。ブミプトラに分類されている以上、サバ州やサラワク州出身のブミプトラのクリスチャン大臣は、半島在住の非ブミプトラのクリスチャン達よりも、マレー人政治指導者からよい扱いを受けるからである。
- 63) 密室会談に出席した代表者の教派は、アングリカン、カトリック、メソディスト、セブンスデー・アドベンティスト、アッセンブリー・オブ・ゴッド、プレズレン、福音派、単立教会などである。エスニック的背景は、サラワク州出身のイバン人、首都圏の華人とインド系である。
- 64) キリスト教指導者層は、当局と懸案事項について会合する際、通常、対立的アプローチを採用しない。本件についても例外ではない。
- 65) マレーシアキリスト教連合は ‘Christian Federation of Malaysia (CFM)’ の訳語で、マレーシア語名は ‘Persekutuan Kristian Malaysia’ である。これは、カトリック教会、マレーシア教会協議会、マレーシア福音派キリスト教交流会を統合したキリスト教上部組織である。1985年2月6日に結成され、1986年1月14日に政府より登録承認を受けた。マレーシア国内のキリスト教人口の約90%を代表し40以上の教派を含む。国レベルのキリスト教組織として、政府や他の宗教に関わる事柄について、キリスト教共同体の代表を務めている (“*Information Malaysia 1995 Yearbook*” p.16.)。
- 66) 資料2を参照。1864年にイバン語聖書の最初の分冊が出されている。
- 67) 複数のインフォーマントとの私的会話によれば、これはマレーシアでは必ずしも言い訳とは見なされないとのことである。それは、高位の政治的指導者達は多忙を極めているため、時折、中身を調べずに公文書に署名してしまうことがあるからだという。しかし、他の何人かのインフォーマントは、代理首相が知らなかったということはかなり疑っていた。

- 68) 代表者の一人である Lawrence Banyie 牧師は、この提案を受け入れたと報道された。2003年8月12日の Dr. Victor Wong との筆者面談によれば、マレーシア聖書協会はこの提案に同意していないという。その理由は、聖書はすべての言語で平等に取り扱われなければならないからであり、もしも協会が提案に賛成したならば、イバン語聖書は例えば英語やマンダリンやタミル語などの聖書より劣位にあると見なされる可能性が出てくるからである。
- 69) 2003年4月23日付 “*Utusan Sarawak*” の記事 ‘Pengharaman “Bup Kudus” ditarik balik.’ 同日付 “*Sarawak Tribune*” の記事 ‘Ban on Bup Kudus lifted.’ 2003年4月25日付 “*Bernama.com*” の記事 ‘Ban On Iban-Language Bible Lifted.’ 同日付 “*Utusan Malaysia Online*” の記事 ‘Ban on Iban-language Bible lifted.’ 2003年4月26日付 “*The Star Online*” の記事 ‘Ban on Iban Bible lifted.’ 同日付 “*New Straits Times Online*” の記事 ‘‘Bup Kudus’ ban lifted, says Abdullah.’ 同日付 “*Malay Mail*” の記事 ‘Ban on Iban Bible lifted.’ シンガポールでも “*The Straits Times*” で2日にわたり報道された。2003年4月25日付の記事 ‘KL to revoke Iban Bible ban.’ および翌日の ‘KL lifts ban on Iban Bible.’
- 70) 例えば、2003年4月27日付 “*Sarawak Tribune*” の記事 ‘Ibans grateful [sic] ban on Bup Kudus lifted.’ 筆者の知る限り、同日付のマレーシア語版 “*Utusan Sarawak*” に同類の記事はなかったようである。
- 71) 2003年5月1日付 UBS 最新ニュース242—マレーシア ‘General Secretary urges patience after Malaysia [sic] Bible ban is lifted.’
- 72) 2003年4月-6月号 “*Berita CCM*” の記事 ‘Bup Kudus is open again...’ p.1.
- 73) 2003年5月4日付 “*Herald*” の記事 ‘Ban on Bup Kudus the Iban Bible lifted.’ p.20.
- 74) Dr. Victor Wong からの2003年6月5日付筆者宛メールによる。
- 75) 聖書の表紙に ‘Untuk Agama Kristian’ の表示がないことが主な理由らしい。
- 76) 2003年5月-6月号 “*Berita NECF*” の記事 ‘Tapes and CDs Seized For Containing “Allah”.’ p.3.
- 77) 2003年4月17日付 “*CNS News.com*.” の Patrick Goodenough 氏署名による記事 ‘Bible Ban Shock in Southeast Asian Democracy.’
- 78) 2001年8月13日ブタリン・ジャヤにあるマレーシア教会協議会オフィスでの筆者との面談による。師は「政府は外国のムスリムが混乱していないことを知っているが、それを認めたくないのだ」と語っていた。Dr. Victor Wong も「私はムスリムが混乱しているとは思わない」という意見であった(2003年8月12日の筆者面談より)。一方、Lim Siew Foong 氏は、視点を変えて「クリスチャンの中に、‘Allah’ と聞くとイスラームを連想するので混乱する人がいるかもしれない。それは人による」とコメントした(2003年8月12日の筆者面談より)。いずれにしても私見では、マレーシアのクリスチャン側が、ムスリムが混乱するかもしれないと公にあって言うことはないだろうと思われる。それは、前者が後者の知性を見下す、あるいは低く見積もることを含意するからである。
- 79) 2003年5月-6月号 “*Berita NECF*” の記事 ‘Lessons from the Ban.’ p.1.
- 80) *Ibid.* カトリックのマラッカ・ジョホール教区 Paul Tan Chee Ing 司教もインタビューで次のように述べている。「マレーシアのトップの政府指導者層は穏健であるが、低い地位にある公務員達が政府の政策を自分達の手で握ってしまう...残念なことにそういった人々の中には偏狭者もいる」(2004年8月10日付 *UCAN* (ML 6603.1301))。
- 81) 2003年12月22日付 “*Bernama.com*” の記事 ‘Christmas Card From Abdullah.’ 同時に次の点も留意すべきである。報道によれば、アブドゥラ首相と部下である政府役人が、2003年12月18日にアメリカ合衆国から公表されたマレーシアの信教の自由に関する報告書は不当なものである、と非難したという(2003年12月20日付 “*New Straits Times Online*” の記事 ‘PM: No truth in US report’)。その報告書にはイバン語聖書問題も含まれていた。それに対してマレーシア福音派キリスト教交流会は、報告書の全ては公平であるという意見であった(2004年1月-2月号 “*Berita NECF*” p.9)。首相からのクリスマスカードは、従って、修辭的意味を伴う行為なのかもしれない。
- 82) ‘Dialogue The Key To Unity Of Multireligious, Multiethnic And Multicultural Societies.’
- 83) 世界教会協議会の2004年8月3日付ニュース発表 ‘Malaysian prime minister calls for concerted effort to initiate inter-faith dialogue.’ (<http://www2.wcc-coe.org/pressreleasesen.nsf/index/>)

84) 資料3のリスト中、No.10の一部とNo.11が欠けているが、それは最初のページ(p.42)が英語版のオリジナルで、次のページ(p.43)がマレー語版のオリジナルだからである。資料をいただいた際、不手際で気づくのが遅れた。2003年4月9日(7 Safar1424)付の “New Straits Times Online” と “Utusan Malaysia Online” (英語版)の記事を参考に、ここに省略部分を補う。No.10の全タイトルは “Belajar Berjalan Dengan Allah” (字義通りには『神と共に歩むことを学ぶ』) で、No.11はPersekutuan Pembaca Alkitab発行John R. W. Scott著 “Alkitab: Buku Untuk Masa Kini” (字義通りには『聖書：現代のための本』) である。

85) アステリスク(*)は、“The Engager” “Berita CCM” の表紙に「内部閲覧のみ」を意味する ‘For private circulation only’ または ‘For internal circulation’ が表示されていることを示す。これらの表示がなければ、当局から印刷物の発行許可が下りないという。また、配布はクリスチャンのみに限られる。ムスリムを非イスラーム諸宗教の影響から保護するための措置である。ただし、これら印刷物の内容は、部分的にウェブサイトで見ることもできる。

86) 『世界キリスト教情報』『キリスト教@ワールドnews』『世界キリスト教情報サービス』である。日本語の内容は、発信元がCJC(キリスト者ジャーナリスト会議)のため、三記事とも同一である。

参考文献

・日本語文献

綾部恒雄・石井米雄(編)(1994)『もっと知りたいマレーシア 第2版』弘文堂 東京

荒川純太郎(1982/1984)『アジアの地下水：サラワクの自然と人々』新教出版 東京

池淵雪浦(編)(1999)『新版 世界各国史6 東南アジア史 島嶼部』山川出版 東京

内堀基光(1987)「国家と部族社会—サラワク・イバンの経験—」(伊藤重人・関本照夫・船曳建夫(編)『現代の社会人類学3 国家と文明への過程』東京大学出版会 東京 pp. 57-82.

梅棹忠夫(監修)(1995)『世界民族問題事典(Encyclopedia of Nations and Ethnic Relations)』平凡社 東京 p.134.

奥村みさ(1993)「ナショナリズム育成策としてのブミプトラ政策」(Bumiputra Policy as a Policy to Develop and Enhance Malaysian Nationalism)『上智アジア学』第11号 pp. 207-238.

綱島(三宅)郁子(2003)「マレーシアにおけるキリスト教とマレー(シア)語の関係」『2001大阪研究大会 多言語社会研究会 年報1号』三元社 東京 pp. 105-123.

戸部実之(編)(1997)『イバン語小辞典 (Iban Dictionary) 』泰流社

・英語およびマレー語文献

Ackerman, Susan Ellen and Lee, Raymond L.M. 1988. *Heaven in Transition: Non-Muslim Religious Innovation and Ethnic Identity in Malaysia*, University of Hawaii Press, Honolulu.

_____.1997. *Sacred Tensions: Modernity and Religions Transformation in Malaysia*, University of South Carolina Press, USA.

Ahmad, F. Yousif. 1998. *Religious Freedom, Minorities and Islam: An Inquiry Into The Malaysian Experience*, Thinker’s Library, Sdn. Bhd., Selangor, Malaysia.

Andaya, Barbara Watson and Andaya, Leonard Y. 1982. *A History of Malaysia*, Macmillan Asian Histories Series, Palgrave Macmillan, London.

Anderson, Gerald H. (ed.) 1998. *Bibliographical Dictionary of Christian Mission*, Simon & Schuster Macmillan, New York, p.48, 303, 430, 447 (Iban Mission).

Archbishop of Kuala Lumpur. 2003 (May 4). *Herald (The Catholic Weekly)*, Vol.10 No.16, Xavier Hall, Petaling Jaya, Malaysia.

Asmah, Haji Omar. 1981. *The Iban Language of Sarawak: A Grammatical Description*, Dewan Bahasa dan Pustaka, Kementerian Pelajaran Malaysia, Kuala Lumpur.

Barrett, David B., Kurian, George T. and Johnson, Todd M. 2001. *World Christian Encyclopedia: A comparative survey of churches and religions in the modern world*, Second Edition, Volume 1, Oxford University Press, pp. 252-3.

Bible Society of Malaysia. 1998. *Bible Society of Malaysia Annual Report*, Petaling Jaya, Malaysia.

_____. 1999. *Bible Society of Malaysia Annual Report*, Petaling Jaya, Malaysia.

_____. 2001a. *Bible Society of Malaysia Annual Report*, Petaling Jaya, Malaysia.

_____. 2001b. *Bup Kudus–Berita Manah Ka Rebak Diatu (Today’s Iban Version)*, Seventh Printing, Petaling Jaya, Malaysia.

_____. 2003 (June-August). *The Engager*,^{*85)} (Vol.2 Number 3), Petaling Jaya, Malaysia.

_____. 2003 (September-November). *The Engager*,^{*} (Vol.2 Number4), Petaling Jaya, Malaysia.

Bureau of Democracy, Human Rights and Labor, U.S. Department of State. 2003. *International Religious Freedom Report 2003 (Malaysia)*, USA, 18 December 2003.

Cassian, Pappu, FSC. 1996. *Malaysian Catholic Schools at the Crossroads*, De La Salle University, The Philippines.

Catholic Research Centre. 1988 (May). *Catholic Asian News*, Kuala Lumpur.

_____. 2004 (April). *Catholic Asian News*, Vol.33 No.4, Kuala Lumpur.

_____. 2004 (September). *Catholic Asian News*, Vol.33 No.9, Kuala Lumpur.

Chew, Maureen Kooi Cheng, II. 2000. *The Journey of the Catholic Church in Malaysia 1511-1996*, Catholic Research Centre, Kuala Lumpur.

Council of Churches of Malaysia. 2003 (April-June). *Berita CCM **, Petaling Jaya, Malaysia.

_____. 2003 (May). *CCM Newslink*, Petaling Jaya, Malaysia

_____. 2003 (June). *CCM Newslink*, Petaling Jaya, Malaysia

_____. 2004 (Jan.-Mar.). *Berita CCM **, Petaling Jaya, Malaysia.

_____. 2004 (April-June). *Berita CCM **, Petaling Jaya, Malaysia.

- Cragg, Kenneth. 1991. *The Arab Christian: A History in the Middle East*, Westminster/John Knox Press, Louisville, Kentucky, USA.
- Darlow, T.H. and Moule, H.F. (eds.) 1903/1963. *Historical Catalogue of the Printed Editions of Holy Scripture II: Polyglots and Languages other than English—Greek to Opa*, British and Foreign Bible Society, London and New York, p.334.
- Ghazali, Basri. 1992. *Christian Mission and Islamic Da'wah in Malaysia*, Second Edition, Nurin Enterprise, Kuala Lumpur, Malaysia.
- _____. 1994a. *Kristian di Sarawak: Suatu Kajian Kes*, Siri Penyelidikan IKD, Institut Kajian Dasar, Kuala Lumpur.
- _____. 1994b. *Kristianisasi Sebagai Sebuah Gerakan Satu Tinjauan Sosiologi*, Institut Pengajian Ilmu-Ilmu Islam, Petaling Jaya, Malaysia.
- _____. 1999. *Gerakan Kristian*, Penerbit Universiti Kebangsaan Malaysia, Bangi, Malaysia.
- Gomes, Edwin H. 1911. *Seventeen years among the Sea Dyaks of Borneo: A Record of Intimate Association with the Natives of the Bornean Jungles*, Seely & Co. Limited, London. (AMS Press, New York, 1981).
- Ho, Daniel K.C. 1996. 'The Church In Malaysia' (Chapter 13) in *Church In Asia Today: Challenges and Opportunities*, Saphir P. Athyal (ed.) Asia Lausanne Committee for World Evangelization, Singapore, pp.257-287.
- Hunt, Robert, Lee, Kam Hing and Roxborough, John. (eds.) 1992. *Christianity In Malaysia: A Denominational History*, Pelanduk Publications, Petaling Jaya, Malaysia.
- Ismail, Abdul Rahman. 2000. *Gerakan Gereja Katolik di Malaysia*, Penerbit Universiti Kebangsaan Malaysia, Bangi, Malaysia.
- Koh, Philip Tong Ngee. 1987. *Freedom of Religion in Malaysia: the legal dimension*, The Christian in Malaysia series No.2, Graduates Christian Fellowship, Petaling Jaya, Malaysia.
- Lee, Min Choon. 1999. *Freedom of Religion in Malaysia*, Kairos Research Centre Sdn. Bhd., Kuala Lumpur.
- _____. 2004. 'The State of Religious Liberty, 2002–2004' in *Watchmen Fourm IV: The Realities of Christian Living in Malaysia*, Wong, Steven, Lim, Siew Foong and Wong, Kim Kong.(eds.), NECF Research Commission, Petaling Jaya, Malaysia, pp.100-107.
- Means, Gordon P. 1991. *Malaysian Politics: The Second Generation*, Oxford University Press, Singapore.
- Muhammad, Abdul Jabbar Beg. 1977. *The heritage of Malay Language I: Arabic loan-words in Malay: A comparative study (A survey of Arabic and Islamic influence upon the languages of mankind)*, The University of Malaya Press, Kuala Lumpur.
- National Evangelical Christian Fellowship of Malaysia. 2003 (May-June). *Berita NECF*, Petaling Jaya, Malaysia.
- _____. 2004 (January-February). *Berita NECF*, Petaling Jaya, Malaysia.
- Newton, Brian William. 1988. 'A new dawn over Sarawak: The Church and its mission in Sarawak, East Malaysia', M.A. thesis, Fuller Theological Seminary, California.
- Ng, Kam Weng. (ed.) 2004. *Doing The Right Thing : A Practical Guide on Legal Matter for Churches in Malaysia*, Kairos Research Centre Sdn. Bhd., Petaling Jaya, Malaysia.
- Ngo, June. 1994. 'Towards cross-cultural cognitive compatibility in the Malay translation of soteriological terms', Ph.D. dissertation, National University of Singapore.
- Nida, Eugene A. 1952. *God's Word In Man's Language*, Harper & Brothers, USA.
- _____.et al.(eds.) 1972. *The Book of a Thousand Tongues (Revised Edition)*, United Bible Societies, United Kingdom, pp.105-6.
- Okumura, Misa. 1994. 'Under Cross and Crescent—Catholics in Malaysia', *The Journal of Sophia Asian Studies*, No.12, pp.157-172.
- Ong, Kian Ming. 2003 (August). 'Christian Engagement in Politics' in *Understanding the Modern World Through Christian Eyes: Engaging Wider Society*, Kairos Publication, Kairos Research Centre Sdn. Bhd., Petaling Jaya, Malaysia, pp.6-8.
- Peter Mulok Kedit. 1980. *Modernization among the Iban of Sarawak*, Dewan Bahasa dan Pustaka/Kementerian Pelajaran Malaysia, Kuala Lumpur.
- Richards, Anthony. 1981. *An Iban-English dictionary*, Oxford University Press, New York.
- Rooney, John. M.H.M. 1981. *Khabar Gembira (The Good News): A History of the Catholic Church in East Malaysia and Brunei (1880-1976)*, Burns & Oates Ltd., Mill Hill Missionaries, London-Kota Kinabalu.
- Scott, N.C. 1956. *A dictionary of Sea Dayak*, School of Oriental and African Studies, University of London, Luzac & Company Ltd., London.
- Shastri, Hermen P. 1989. 'Christ in Tribal Culture: A study of the interaction between Christianity and Semai society of Peninsular Malaysia in the context of the history of the Methodist mission (1930-1983)', Th.D. dissertation, Ruprecht-Karls-Universitaet of Heidelberg.
- Soesilo, Daud H. 2001 (October). 'Translating the names of God: recent experience from Indonesia and Malaysia' in *The Bible Translator* (practical papers), Vol. 52, No.4. United Bible Societies, United Kingdom, pp.414-423.
- Sunquist, Scott W. (ed.) 2001. *A Dictionary of Asian Christianity*, William B. Eerdmans Publishing Company, Grand Rapids, Michigan, USA/Cambridge, United Kingdom.
- Theodore, Gabriel. 1995. 'The Malaysian Government and Christian-Muslim Relations in Malaysia', *DISKUS*, Vol.3, No.2, Marburg Universitaet (Religionwissenschaft), pp.13-22.
- _____. 1996. *Christian-Muslim Relations—A Case Study of Sarawak, East Malaysia—*, Avebury, United Kingdom.
- United Bible Societies. 1996. *Scripture of the World*, United Kingdom, p.21.
- _____. 2003 (1 May). *United Bible Societies Latest News 242—Malaysia*, United Kingdom.

法律および統計

Banci Penduduk dan Perumahan Malaysia 1991 (Population and Housing Census of Malaysia 1991), *Laporan Am Banci Penduduk (General Report of the Population Census)* Jilid (Volume) 1, Jabatan Perangkaan Malaysia (Department of Statistics Malaysia), Kuala Lumpur.

Banci Penduduk dan Perumahan Malaysia 2000 (Population and Housing Census of Malaysia 2000), *Taburan Penduduk dan Ciri-ciri Asas Demografi (Population Distribution and Basic Demographic Characteristics)*, Jabatan Perangkaan Malaysia (Department of Statistics Malaysia), Kuala Lumpur, July 2001.

Federal Constitution (As at 10th April 2002), International Law Book Services, Kuala Lumpur, 2002.

Hompej Jabatan Perangkaan Malaysia (Homepage of the Department of Statistics, Malaysia) 2000 (<http://www.statistics.gov.my>).

Information Malaysia 1995 Yearbook, Berita Publishing Sdn Bhd, Kuala Lumpur.

Information Malaysia 2002 Yearbook, Berita Publishing Sdn Bhd, Kuala Lumpur.

Laws of Malaysia Act 301, Printing Presses and Publications Act 1984.

Perlembagaan Persekutuan (Hingga 15hb Januari 2002), International Law Book Services, Kuala Lumpur, 2002.

Siaran Perangkaan Bulanan (Monthly Statistical Bulletin) Malaysia, Mac (March) 2003, Jabatan Perangkaan Malaysia (Department of Statistics, Malaysia), Putrajaya, Malaysia.

Siaran Perangkaan Bulanan (Monthly Statistical Bulletin) Sabah, Mei (May) 2003, Jabatan Perangkaan Malaysia (Department of Statistics Malaysia), Negeri Sabah, Malaysia.

Siaran Perangkaan Bulanan (Monthly Statistical Bulletin) Sarawak, Mei (May) 2003, Jabatan Perangkaan Malaysia (Department of Statistics Malaysia), Negeri Sarawak, Malaysia.

Undang-Undang Malaysia Akta 301, Akta Mesin Cetak dan Penerbitan 1984.

ウェブサイト記事

・マレーシア国内メディア(英語・マレー語)

Malaysiakini.com (35記事) *New Straits Times Online* (14記事) *The Star Online* (10記事) *Sarawak Tribune* (7記事) *Bernama.com* (6記事) *Berita Harian Online* (3記事) *Utusan Malaysia Online* (3記事) *Inside Sarawak* (2記事) *Malay Mail* (2記事) *Utusan Sarawak* (1記事), *DAP(Democratic Action Party) Media Statement* (8記事)

・マレーシア国外メディア(英語)

The Straits Times (シンガポール: 5記事) *Catcha.Com.News* (東南アジア地域: 4記事) *CNS News.com* (アメリカ合衆国ヴァージニア州: 2記事) *Asiamedia* (アメリカ合衆国ロサンゼルス: 1記事) *Daily Times* (アメリカ合衆国テキサス州: 1記事) *World Net Daily. com* (アメリカ合衆国: 1記事) *Radio Australia News* (オーストラリア: 1記事) *Canadian Grassroots* (カナダ: 1記事) *Borneo Bulletin* (ブルネイ: 1記事) *South China Morning Post* (香港: 1記事) *Asia Times Online* (香港: 1記事) *Islamic Republic News Agency* (イラン: 1記事)

・キリスト教関連ウェブサイト(英語・フランス語・日本語)

Canadian Bible Society's News Site/Christian Headlines/The Voice of the Martyr (カナダ: 6記事) *The Prayer Book Society, Anglican* (アメリカ合衆国フィラデルフィア州: 4記事) *Christian Monitor, Christian Persecution* (香港: 3記事) *Christian Journalist Congress* (日本: 3記事)⁸⁶⁾ *Touchstone Magazine, A Journal of Mere Christianity* (アメリカ合衆国イリノイ州: 3記事) *Council for World Mission/Ekklesia- a new way of thinking* (英国: 2記事) *Anglican Media/Harvest West* (オーストラリア: 2記事) *Maranatha Christian Journal* (アメリカ合衆国カリフォルニア州: 1記事) *Christian News Today.com, Christian World News* (アメリカ合衆国オハイオ州: 1記事) *Infocatho* (フランス: 1記事) *Christian Today India* (インド: 1記事) *Agenzia fides* (ヴァチカン: 1記事)

・個人あるいは組織によるキリスト教系ウェブサイト

Catholic Archdiocese of Kuala Lumpur: <http://www.archway.org.my>

Council of Churches of Malaysia: <http://www.ccmalaysia.org>

National Evangelical Christian Fellowship of Malaysia: <http://www.necf.org.my>

Petition: <http://www.petitiononline.com/BibleBan/petition.html>.

Union of Catholic Asian News: <http://www.ucanews.com>

United Bible Societies: <http://www.biblesociety.org>

・サラワクに関するフリートークのウェブサイト

Minyu Sarawak Talk (13記事): <http://www.malaysia.net/sarawak>

Randau Ruai (18記事): <http://www.malaysia.net/randauruai>

謝辞

(機関)

マレーシア国立図書館(Perpustakaan Negara Malaysia)、マラヤ大学中央図書館(Perpustakaan Utama Universiti Malaya)、マラヤ大学言語学部図書館(Perpustakaan Fakulti Bahasa dan Linguistik)、聖フランシスコ・ザビエル・カトリック教会附属図書館(Library of St. Francis Xavier's Church(ブタリン・ジャヤ))、マレーシア神学院図書館(Library of Seminari Theoloji Malaysia(セレンバン))、トリニティ神学院図書館(Library of the Trinity Theological College(シンガポール))、シンガポール聖書協会、聖書協会世界連盟、財団法人日本聖書協会聖書図書館、京都大学東南アジア研究所図書室、国立民族学博物館図書館、大阪府立中央図書館、大阪府島本町立図書館

(個人)

本稿に関するリサーチ過程において、以下に列挙した人々から多くの助言や援助をいただいた。心より感謝申し上げる。

Rev. Dr. Daud H. Soesilo (ジャワ系インドネシア人・聖書協会世界連盟アジア太平洋地域翻訳コーディネーター) Rev. Dr. Hermen Priyaraj Shastri (マレーシア教会協議会幹事長) Ms. Josephine Daniel(同アシスタント) Rev. Wong Kim Kong, J.M.N. (マレーシア福音派キリスト教交流会事務局長) Ms. Lim Siew Foong (同研究員) Dr. Victor Wong Kway Shin ((当時)マレーシア聖書協会事務局長) Dr. Yu Suee Yan (同翻訳コンサルタント) Ms. Grace Khoo (同秘書) Mr. Samuel Ang Eng Hoe (聖書同盟マレーシア半島本部事

務局長) Ms. Goh Lay Hua (メソディスト・キリスト教文献マレーシア語翻訳者) Ms. Tan Joo Kim (聖書同盟マレーシア半島本部スタッフ) Rev. Dr. Ong Meng Chai (クアラルンプール在の福音自由教会牧師) Mr. Augustine Mahalingam Palani (カトリック・クアラルンプール大司教館付研究員兼マレーシア語翻訳者) Mr. Rufus Bruno Pereira (クアラルンプール大司教管区カトリック司牧センター研究員) Ms. Philomena Santanam (カトリック・クアラルンプール大司教館アシスタント) Ms. Ann Savarimuthu (クアラルンプール大司教管区カトリック司牧センター図書館スタッフ) Ms. Catherine Chana James Gak (クアラルンプール在住イバン人カトリック) Mr. Edward P. L. Lee (メソディスト・教会信徒リーダー) Mr. P. Sakthivel (マレーシア神学院図書館アシスタント) 高橋祐子氏 (財団法人日本聖書協会・出版部翻訳担当スタッフ)

2003年12月13,14日に東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所で開かれた、日本マレーシア研究会(JAMS)主催の第12回研究大会において、筆者は二日目に本テーマで口頭発表の機会を与えられた。特に、イバン研究がご専門の内堀基光先生には、貴重なコメントをいただいた。また、ビダユー人でサラワク州クチンにある慣習伝統協議会(Majlis Adat Istiadat)事務局長Jayl Langub氏は、発表前日にレジュメ内容(資料6の出席者名と教会役職名)の誤りを指摘してくださった。さらに坪井祐司氏は、筆者の口頭発表の要旨および感想をJAMS会報に書いてくださった(“JAMS News”, No.28, 2004. pp.12-3)。紙面を拝借してここに厚くお礼を申し上げる。

テーマ論文「一神教における対立と対話」

イスラーム思想・文化における平和 ※

モスタファ・モハググダーマード (Mostafa Mohagheghdamad)

キーワード
イスラーム、平和、寛容、宗教的同胞関係、正義、「啓典の民」

※本稿は、Mostafa Mohagheghdamadの英語による口頭発表用の原稿 “Peace in The Islamic Thought and Culture” の翻訳である。

要旨

イスラーム文化全般、特にイスラーム法を専門とする幾人かの欧米の学者たちは、これまで第一次的資料でなく、(しっかりした根拠に欠けた)脆弱な法源に依拠してきた。彼らによって、時に特殊な考えを一般化することや、誤った結論が導き出された。さらに悪いことには、彼らの安易な一般化はメディア記者によって、時に真実のように喧伝されてきた。このようなことがイスラーム国際法に関する最近の誤謬ある記述を多く招くこととなったのである。

本稿における著者の意図は、クルアーンとスンナ(慣行)というイスラーム固有の資料に基づいて、真のイスラームを提示することである。これは、特に9・11事件の一連の出来事の後で、現存する誤解を取り除くことに貢献するであろうと思われる。このため、本稿では以下のようなことを簡潔に議論していく:イスラームと平和、平等の原理、宗教上の適用および社会面での適用、イスラームにおける寛容さの原理と普遍的同胞関係、宗教的協力の先例、平和の訴え、「啓典の民」との論争、宗教的同胞関係、普遍的同胞関係。

「イスラーム思想・文化における平和」

イスラーム文化の総論やイスラーム法の各論について述べている欧米の学者が、信頼できる元の出典を調べもせずに、あまり重要でない参考文献に頼って論文を書いている場合がある。安易に特定の意見を一般化し、誤った結論や中身のない結論を導き出してしまっていることもある。しかもなお悪いことに、他の国際法学者がそのような一般化された意見をあたかも立証された事実であるかのように模倣し、広めてしまうことがある。こうした論法により多くの謬見が生まれ、さらにそれがイスラーム国際法について論文を書いている一部の研究者によって広められている。